共通教育科目（食文化学部管理栄養学科を除く）のカリキュラムマップ

Ⅰ　共通教育科目の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
①キリスト教精神に基づく人間理解を深め、生き方など現実の問題等に結び付けて考える力
②社会人に必要な基本的知識や技能、行動様式、コミュニケーション能力、就業力等を身につけて社会性の基盤を培い、これを社会の発展等に活用できる力
③専門的な学習の基盤となる幅広い学問的知識や技能を身につけて、総合的に判断し、主体的に行動できる力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
キリスト教科目	聖書の世界	旧約聖書の歴史や物語を知り、異文化間に生きる国際人としての基礎的教養を身につける。また、新約聖書の物語やイエスの教えを通じてキリスト教の愛の教えを本質的な点で理解し、これによりキリスト教主義に立つ梅花女子大学での学びをより豊かなものとする。	1	1	1			
			1		1			1
	澤山保羅と建学の精神	キリスト教についての知識を得ることで、国際人としての教養を身につける。また、キリスト教一般の中で本学創立者と建学の精神とがどのような位置にあるのかを理解することで、この大学で学ぶための基本的な姿勢と、梅花女子大学生としてのアイデンティティーとを養う。	1	1	1			
			1		1			1
キャリア基礎科目	初年次セミナーⅠ	話を聞くだけでなく、テキストを読む、意見を述べる、話し合う、発表する、メモを取る、情報を整理する、意見を書く、といったことができるようになるり、さらに共同作業で初歩的なプレゼンテーションができるようになることが目標である。		1				
				1	1	1	1	
	初年次セミナーⅡ	①マインドマップやマトリックス、包含図などを使いこなして分析したり、ひとと議論できるようになること、②議論の結果をまとめて人前でプレゼンテーションできるようになることが目標である。		1				
				1	1	1	1	
	問題発見・解決セミナーⅠ	身近なところにある問題を発見する経験を積み、テーマが決まったら、到達目標を定め企画書にまとめる力をつける。さらに情報の整理とディスカッション能力、グループメンバーの役割分担と協力体制の確立、プレゼンテーション能力のスキルアップをめざす。		1	1			
				1	1	1	1	
	キャリアデザイン	①社会で求められる基礎的な数的処理能力、言語能力を身につける②自分を知り、社会で求められる力を知る③様々なワークスタイルを知る④マナーを身につけ就職活動の流れを知る⑤目標を実行に移せる。		1				
			1	1	1	1		
	キャリアサポート	より良い人生を歩むために必要な知識と、自分で自分の人生をデザインできる考え方を身につける。		1				
				1	1			
	美しい日本語（話し方）	美しい日本語の発声発音の理解と敬語表現を学び、伝わりやすくより女性らしいおしゃれな話し方を身につける。		1				
			1	1	1	1	1	
	美しい日本語（書き方）	読み手にとって、わかりやすい日本語の文章を書けるようになることが目標である。		1				
			1	1	1	1		1
	ビジネスマナー基礎	ビジネスマナーの基礎知識を習得し、実践することができるようになる。積極的に自分の意見を発言することができるようになる。決められた時間内に自分の意見を的確に表文章現することができるようになる。		1				
			1			1	1	
	ビジネスマナー応用	自分の意見を的確に伝えるコミュニケーション力を身につけ、あらゆる業界で活躍できる社会人基礎力を向上させる。		1				
			1			1	1	
	情報処理演習Ⅰ	必要な情報を的確に伝達するための文章作成の方法を習得するとともに、その内容をより分かりやすくするための画像などの活用方法を習得する。		1				
			1	1	1	1		1
	情報処理演習Ⅱ	必要な数値を正確に算出するための表計算の方法を習得するとともに、その内容を「見える化」するためのグラフなどの活用方法を習得する。		1				
			1	1	1	1		1

グローバルコミュニケーション科目	英語会話Ⅰ	TOEIC 300～400取得可能な英語力を目指す。TOEIC Part1写真描写問題のように、写真や絵を見て状況を説明出来る。英語力の取得を目指す。		1				
						1		1
	英語会話Ⅱ	TOEIC400～450取得可能な英語力を目指す。TOEIC Part2応答問題のように、質問に対して会話のテンポを落とす事なく、すぐに返答できる英語力の取得を目指す。		1				
						1		1
	英語会話Ⅲ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上ることを目標とする。理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		1				
						1		1
	英語会話Ⅳ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上ることを目標とする。理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		1				
						1		1
	日本語Ⅰ	大学生活において必要な日本語を、読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目標である。		1				
						1		1
	日本語Ⅱ	大学における学習に必要なやや高度な日本語を、読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目標である。		1				
						1		1
	日本語Ⅲ	学術的でやや高度な日本語を読み、書き、それについて基本的なディスカッションや内容紹介のプレゼンテーションができるようになることが目標で		1				
						1		1
	日本語Ⅳ	学術的で高度な日本語を読み、書き、それについて深いディスカッションや独自のプレゼンテーションが行えるようになることが目標である。		1				
						1		1
	バレエⅠ（入門）	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。レッスンマナーを学び、周りの人へ思いやりのある精神面でも高い女性を目指す。		1				
			1	1			1	
	バレエⅡ（基礎）	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。グループワークと課題は全員で取り組み、一つのものをつくる達成感を味わう。		1				
			1	1			1	
	ダンスⅠ	身体の使い方の基礎、各種のステップ、レパートリーワーク、作品の見方、味わい方、踊り方を学びグループにより作品発表によって自己開示、他者理解を深めて、個人技能の獲得と身体のコミュニケーション能力を高める。		1				
			1			1	1	
	ダンスⅡ	ストレッチングの理論と実践エクササイズの理論と実践アイソレーション・リズムトレーニング・基本ステップ・ステップコンビネーション以上を毎時間実施し、最終的にはショートプログラムの振り付けを完成させる。		1				
			1			1	1	
	ミュージカルⅠ	プロとして通用する、音程、リズム感、歌唱力、表現力を身につける。 2)役者として、舞台、公演などで通用する、声の力、演技力、台詞力。その場、相手に反応できる力を身につける。 3)表現としてのダンス、それができるための身体を身につける。		1				
			1	1	1	1	1	1
	ミュージカルⅡ	テクニックだけでなく、ひとりの表現者としての意識を持ち、歌、踊り、演技に、関わっていくこと。それを、日常に生かしていくことを目指す。		1				
			1	1	1	1	1	
	ミュージカル総合Ⅰ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅱ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅲ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅳ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅴ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅵ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	舞台技術	舞台美術、照明、音響、衣装など舞台づくりに欠かせない基礎知識を理解したうえで、舞台に立つ者の立場、演出する立場など、それぞれの役割のなかでの舞台技術の重要性を理解する。			1			
			1	1		1	1	
	健康とスポーツ（実技）	心身ともに健康な活力を培うために、人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識について、実践研究をとおして修得することを目標とする。技術向上よりもいろいろな身体活動を体験する楽しみから、人とのコミュニケーションを図る。		1				
			1	1	1	1	1	
	健康とスポーツ（理論）	自分自身にあったスポーツ活動についてプログラミングができるようになることを目標とする。		1				
			1	1	1	1	1	
	生涯スポーツ	卓球、ニュースポーツゲームを通して、身体活動の必要性と楽しさを味わう。		1				
			1	1	1	1	1	

教養科目	英語会話	コース終了までに学生が日常のトピックスについて流暢に話すことができるのが目標である。新たに約100個の便利な単語を学び、文脈の中でそれらを使うことができるようにする。		1				
						1	1	1
	フランス語会話	話したい内容を基本的語句、表現で伝えられる。日常生活で役立つ表現を理解し、基本的対応ができるようにする。簡単なフランス語文が読める。簡単なフランス語文が書けるようにする。		1				
					1	1	1	1
	中国語会話	中国語の正確な発音を身に着け、基本文法を理解し、簡単な会話ができるようにする。		1				
			1	1		1	1	1
	ハングル講座	①韓国語で自己紹介ができる。②日常生活で活用できる基礎会話能力を身につけることが目標である。		1				
			1			1		1
	日本語Ⅰ	大学生活において必要な日本語を、読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目標である。		1				
						1		1
	手話入門	挨拶や自己紹介などの簡単な日常会話が手話出来るように目指す。この学習を通して、聴覚障害の障害理解をし、どのような配慮をしたら良いかを考える視点を育てる。さらに、日常のコミュニケーションをより大切にし、自分の気持ちを相手に豊かに届けることを目指す。		1				
			1	1		1	1	1
	女性と法	現代社会における女性に対する様々な人権侵害に気付き、それらを身近な問題として考え、多角的に分析する力を身につける。さらに諸問題の改善策、解決策を考える力を養う。		1	1			
			1	1	1	1		1
	ジェンダーと福祉	ジェンダーの視点から家族と福祉について学び、受講生がジェンダー平等な福祉政策のあり方について考察を深めることを到達目標とします。		1	1			
			1	1	1			1
	先輩に学ぶ女性の生き方	①先輩諸氏の体験談を聞くことにより、今後の学び方・生き方の指針とする。②「聴く」「書く」「話す」「調べる」技術を身につける。		1	1			
			1		1	1		1
	硬筆入門	文字のもつ美を理論的にまた技術的に追求し、実用的な書写技術の向上をはかる。		1				
			1	1	1	1		1
	ビジネスマナー入門	実社会で必要なビジネスマナーの基本を理解し、習得を目指す。		1				
			1	1	1	1	1	1
	図書館の文化史	①日本及び世界の図書館の歴史と発展について理解を深める。②紙以前の記録メディアの誕生から近代のメディアに至る発展の過程を学び、理解する。③図書館と社会のかかわりについて知り、図書館の役割を考えられるようになる。		1				
						1		
	日本の歴史と文化	（1）日本の文化・歴史に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。|（2）歴史的なものの見方・考え方に立って現代社会を相対化することで、現代日本の社会や文化について豊かな見方ができる力を身につける。			1			
			1	1	1			1
	世界のファッション	毎日の必需品としている消耗品としての衣服が、実は人類が生きてきた証を表象しているものとして捉えることができることを認識する。		1				
			1	1	1			1
	世界食紀行	異文化理解の重要性をふまえ、多文化共存社会の未来のあり方について考えられるようになる。		1				
			1					1
	日本国憲法	①憲法が保障する基本的人権の意味や意義を理解する。②各種の人権問題に関心を持ち、理解に努める。③各種の人権問題の解決方法を模索し、自分なりの意見を持つ。		1	1			
			1	1	1	1		1
	人間と法（法学）	裁判での争点を理解し、社会における具体的な「法」の役割に気づくとともに、自ら考える力を身につけることを目標とする。		1	1			
			1	1	1	1		1
	政治学	①新聞などで報道される政治に関するニュースが、理解できるようになること。②社会問題や政治に関して、きちんとした理由や歴史的経緯などを踏まえたうえで、自分自身の意見を確立できるようになること。③社会科学に関する基礎的知識を習得すること。		1	1			
				1	1			1
	物質と宇宙	世の中の不思議を科学者がどのように解明してきたかを学ぶことで、自然を科学的に眺める方法を身に付けつつ、またその科学にも限界があることを知る。それにより、物事を鵜呑みにしない科学的態度を養う。		1				
			1	1	1			
	生物・化学の基礎	①生命体を構成する物質を列挙し説明できる。②細胞や遺伝子の構造と機能を説明できる③細胞の増殖と分化、細胞内の代謝と細胞呼吸を説明できる。④生殖と発生、成長と老化を説明できる。⑤個体の維持について例をあげて説明できる。⑥遺伝のしくみを説明できる。		1				
				1	1			
	情報科学	情報という概念を知り、それを利用できるコンピュータの基礎を理解する。そして、それを理解した上で、安全に利用し、活用できるようになることが目標である。		1	1			
				1	1	1		1
	数の世界	数にかかわる問題に、自ら手を動かして考えることで、学ぶことの楽しさを知る。		1				
				1	1			
	こどもの造形	各自の学んでいる学部・学科の内容と幼児教育を組み合わせる事で、社会に出てからの　スキルアップにつなげてもらう。それにより自分達のキャリアデザインの可能性を飛躍させることを目指す。		1				
			1	1	1	1	1	

	メンタルヘルス入門	メンタルヘルス（精神保健福祉）の様々な課題について理解し、自分自身の身近な問題として捉え考えること。			1			
			1	1	1			
	アニマルセラピー入門	アニマルセラピーに対して自分自身の意見、立場を表明できるようになることが目標である。		1	1			
			1	1	1	1		
	ボランティア入門	ボランティア活動が個人の生活および地域社会にもたらす意味を理解する。ボランティア活動と様々な世界との「つながり」を知る。		1	1			
			1	1		1	1	1
	歯科健康教育	口腔の機能を知り、自分自身の口腔管理ができるようになることが目標である。		1				
			1	1	1	1	1	
	栄養教育	自身の食生活に関心を持ち、健康な食生活とはどうあるべきかを考えることができる。ライフステージに応じた栄養教育について理解する。		1	1			
			1	1	1			
	身近な介護サービス	自分や家族のためになる生活援助(家事援助レベル)の知識や技術を身につける。		1				
			1	1		1		1

共通科目（食文化学部管理栄養学科）のカリキュラムマップ

Ⅰ　共通科目の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
①キリスト教精神に基づく人間理解を深め、生き方など現実の問題等に結び付けて考える力
②社会人に必要な基本的知識や技能、行動様式、コミュニケーション能力、就業力等を身につけて社会性の基盤を培い、これを社会の発展等に活用できる力
③専門的な学習の基盤となる幅広い学問的知識や技能を身につけて、総合的に判断し、主体的に行動できる力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
キリスト教科目	聖書の世界	旧約聖書の歴史や物語を知り、異文化間に生きる国際人としての基礎的教養を身につける。また、新約聖書の物語やイエスの教えを通じてキリスト教の愛の教えを本質的な点で理解し、これによりキリスト教主義に立つ梅花女子大学での学びをより豊かなものとする。	1	1	1			
			1		1			1
	澤山保羅と建学の精神	キリスト教についての知識を得ることで、国際人としての教養を身につける。また、キリスト教一般の中で本学創立者と建学の精神とがどのような位置にあるのかを理解することで、この大学で学ぶための基本的な姿勢と、梅花女子大学生としてのアイデンティティーとを養う。	1	1	1			
			1		1			1
キャリア基礎科目	初年次セミナーⅠ	話を聞くだけでなく、テキストを読む、意見を述べる、話し合う、発表する、メモを取る、情報を整理する、意見を書く、といったことができるようになるり、さらに共同作業で初歩的なプレゼンテーションができるようになることが目標である。		1				
				1	1	1	1	
	初年次セミナーⅡ	①マインドマップやマトリックス、包含図などを使いこなして分析したり、ひとと議論できるようになること、②議論の結果をまとめて人前でプレゼンテーションできるようになることが目標である。		1				
				1	1	1	1	
	問題発見・解決セミナーⅠ	身近なところにある問題を発見する経験を積み、テーマが決まったら、到達目標を定め企画書にまとめる力をつける。さらに情報の整理とディスカッション能力、グループメンバーの役割分担と協力体制の確立、プレゼンテーション能力のスキルアップをめざす。		1	1			
				1	1	1	1	
	問題発見・解決セミナーⅡ	現実社会から問題を発見し、調査や討論によりその解決策をよりよいものにしていく体験を積む。説得力を持ったプレゼンテーションにするためには協同して調査し行動することが必要であることを学ぶ。		1	1			
				1	1	1	1	
	キャリアデザイン	①社会で求められる基礎的な数的処理能力、言語能力を身につける②自分を知り、社会で求められる力を知る③様々なワークスタイルを知る④マナーを身につけ就職活動の流れを知る⑤目標を実行に移せる。		1				
			1	1	1	1		
	キャリアサポート	より良い人生を歩むために必要な知識と、自分で自分の人生をデザインできる考え方を身につける。		1				
				1	1			
	美しい日本語（話し方）	美しい日本語の発声発音の理解と敬語表現を学び、伝わりやすくより女性らしいおしゃれな話し方を身につける。		1				
			1	1	1	1	1	
	美しい日本語（書き方）	読み手にとって、わかりやすい日本語の文章を書けるようになることが目標である。		1				
			1	1	1	1		1
情報科目	情報処理演習Ⅰ	必要な情報を的確に伝達するための文章作成の方法を習得するとともに、その内容をより分かりやすくするための画像などの活用方法を習得す		1				
			1	1	1	1		1
	情報処理演習Ⅱ	必要な数値を正確に算出するための表計算の方法を習得するとともに、その内容を「見える化」するためのグラフなどの活用方法を習得する。		1				
			1	1	1	1		1
グローバルコミュニケーション科目	英語会話Ⅰ	TOEIC 300～400取得可能な英語力を目指す。 TOEIC Part1写真描写問題のように、写真や絵を見て状況を説明出来る。 英語力の取得を目指す。		1				
						1		1
	英語会話Ⅱ	TOEIC400～450取得可能な英語力を目指す。 TOEIC Part2応答問題のように、質問に対して会話のテンポを落とす事なく、すぐに返答できる英語力の取得を目指す。		1				
						1		1
	英語会話Ⅲ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上ることを目標とする。理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		1				
						1		1
	英語会話Ⅳ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上ることを目標とする。理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		1				
						1		1

スポーツ科目	健康とスポーツ(実技)	心身ともに健康な活力を培うために、人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識について、実践研究をとおして修得することを目標とする。技術向上よりもいろいろな身体活動を体験する楽しみから、人とのコミュニケーションを図る。		1				
			1	1	1	1	1	
	健康とスポーツ(理論)	自分自身にあったスポーツ活動についてプログラミングができるようになることを目標とする。		1				
			1	1	1	1	1	
	生涯スポーツ	卓球、ニュースポーツゲームを通して、身体活動の必要性と楽しさを味わう。		1				
			1	1	1	1	1	
	バレエⅠ(入門)	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。レッスンマナーを学び、周りの人へ思いやりのある精神面でも高い女性を目指す。		1				
			1	1			1	
	バレエⅡ(基礎)	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。グループワークと課題は全員で取り組み、一つのものをつくる達成感を味わう。		1				
			1	1			1	
	ダンスⅠ	身体の使い方の基礎、各種のステップ、レパートリーワーク、作品の見方、味わい方、踊り方を学びグループにより作品発表によって自己開示、他者理解を深めて、個人技能の獲得と身体のコミュニケーション能力を高める。		1				
			1			1	1	
	ダンスⅡ	ストレッチングの理論と実践エクササイズの理論と実践アイソレーション・リズムトレーニング・基本ステップ・ステップコンビネーション以上を毎時間実施し、最終的にはショートプログラムの振り付けを完成させる。		1				
			1			1	1	
	ミュージカルⅠ	プロとして通用する、音程、リズム感、歌唱力、表現力を身につける。 2)役者として、舞台、公演などで通用する、声の力、演技力、台詞力。その場、相手に反応できる力を身につける。		1				
			1	1	1	1	1	1
	ミュージカルⅡ	テクニックだけでなく、ひとりの表現者としての意識を持ち、歌、踊り、演技に、関わっていくこと。それを、日常に生かしていくことを目指す。		1				
			1	1	1	1	1	
	ミュージカル総合Ⅰ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅱ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅲ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅳ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅴ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	ミュージカル総合Ⅵ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		1	1			
			1			1	1	
	舞台技術	舞台美術、照明、音響、衣装など舞台づくりに欠かせない基礎知識を理解したうえで、舞台に立つ者の立場、演出する立場など、それぞれの役割のなかでの舞台技術の重要性を理解する。			1			
			1	1		1	1	
	英語会話(日常編)	コース終了までに学生が日常のトピックスについて流暢に話すことができるのが目標である。新たに約100個の便利な単語を学び、文脈の中でそれらを使うことができるようにする。		1				
						1	1	1
	英語会話(旅行編)	旅行中に起きる疑問を質問したり、基本的な情報について理解できるようになるのがこのコースの目標である。新たに約150個の便利な単語を学び、文脈の中でそれらを使うことができるようにする。		1				
						1	1	1
	フランス語会話(日常編)	話したい内容を基本的語句、表現で伝えられる。日常生活で役立つ表現を理解し、基本的対応ができるようにする。簡単なフランス語文が読める。簡単なフランス語文が書けるようにする。		1				
					1	1	1	1
	フランス語会話(旅行編)	話したい内容を基本的語句、表現で伝えられる。旅行で役立つ表現を理解し、基本的対応ができるようにする。簡単なフランス語文が読める。簡単なフランス語文が書けるようにする。		1				
					1	1	1	1
	中国語会話(日常編)	中国語の正確な発音を身に着け、基本文法を理解し、簡単な会話ができるようにする。		1				
			1	1		1	1	1
	中国語会話(旅行編)	中国語の正確な発音を身に着け、基本文法を理解し、簡単な会話ができるようにする。		1				
			1	1		1	1	1
	ハングル講座(日常編)	①韓国語で自己紹介ができる。②日常生活で活用できる基礎会話能力を身につけることが目標である。		1				
			1			1		1
	ハングル講座(旅行編)	①韓国語で自己紹介ができる。②旅行先で活用できる基礎会話能力を身につけることが目標である。		1				
			1			1		1
	日本語Ⅰ	大学生活において必要な日本語を、読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目標である。		1				
						1		1

教養科目	日本語Ⅱ	大学における学習に必要なやや高度な日本語を、読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目標である。		1				
						1		1
	日本語Ⅲ	学術的でやや高度な日本語を読み、書き、それについて基本的なディスカッションや内容紹介のプレゼンテーションができるようになることが目標		1				
						1		1
	日本語Ⅳ	学術的で高度な日本語を読み、書き、それについて深いディスカッションや独自のプレゼンテーションが行えるようになることが目標である。		1				
						1		1
	手話入門	挨拶や自己紹介などの簡単な日常会話が手話出来るように目指す。この学習を通して、聴覚障害の障害理解をし、どのような配慮をしたら良いかを考える視点を育てる。さらに、日常のコミュニケーションをより大切にし、自分の気持ちを相手に豊かに届けることを目指す。		1				
			1	1		1	1	1
	女性と法	現代社会における女性に対する様々な人権侵害に気付き、それらを身近な問題として考え、多角的に分析する力を身につける。さらに諸問題の改善策、解決策を考える力を養う。		1	1			
			1	1	1	1		1
	先輩に学ぶ女性の生き方	①先輩諸氏の体験談を聞くことにより、今後の学び方・生き方の指針とする。②「聴く」「書く」「話す」「調べる」技術を身につける。		1	1			
			1		1	1		1
	ワークライフバランス	より良い人生を歩むために必要な知識と、自分で自分の人生をデザインできる考え方を身につける。		1	1			
			1	1	1	1		
	硬筆入門	文字のもつ美を理論的にまた技術的に追求し、実用的な書写技術の向上をはかる。		1				
			1	1	1	1		1
	ビジネスマナー入門	実社会で必要なビジネスマナーの基本を理解し、習得を目指す。		1				
			1	1	1	1	1	1
	図書館の文化史	①日本及び世界の図書館の歴史と発展について理解を深める。②紙以前の記録メディアの誕生から近代のメディアに至る発展の過程を学び、理解する。③図書館と社会のかかわりについて知り、図書館の役割を考えられるようになる。		1				
						1		
	日本の文化	①日本の文化・歴史に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。②歴史的なものの見方・考え方に立って現代社会を相対化することで、現代日		1				
				1	1			
	世界のファッション	毎日の必需品としている消耗品としての衣服が、実は人類が生きてきた証を表象しているものとして捉えることができることを認識する。		1				
			1	1	1			1
	世界食紀行	異文化理解の重要性をふまえ、多文化共存社会の未来のあり方について考えられるようになる。		1				
			1					1
	日本国憲法（←憲法と人権）	①憲法が保障する基本的人権の意味や意義を理解する。②各種の人権問題に関心を持ち、理解に努める。③各種の人権問題の解決方法を模索し、自分なりの意見を持つ。		1	1			
			1	1	1	1		1
	人間と法（法学）	裁判での争点を理解し、社会における具体的な「法」の役割に気づくとともに、自ら考える力を身につけることを目標とする。		1	1			
			1	1	1	1		1
	物質と宇宙	世の中の不思議を科学者がどのように解明してきたかを学ぶことで、自然を科学的に眺める方法を身に付けつつ、またその科学にも限界があることを知る。それにより、物事を鵜呑みにしない科学的態度を養う。		1				
			1	1	1			
	生物・化学の基礎	①生命体を構成する物質を列挙し説明できる。②細胞や遺伝子の構造と機能を説明できる③細胞の増殖と分化、細胞内の代謝と細胞呼吸を説明できる。④生殖と発生、成長と老化を説明できる。⑤個体の維持について例をあげて説明できる。⑥遺伝のしくみを説明できる		1				
				1	1			
	情報科学	情報という概念を知り、それを利用できるコンピュータの基礎を理解する。そして、それを理解した上で、安全に利用し、活用できるようになることが目標である。		1	1			
				1	1	1		1
	数の世界	数にかかわる問題に、自ら手を動かして考えることで、学ぶことの楽しさを知る。		1				
				1	1			
	こどもの造形	各自の学んでいる学部・学科の内容と幼児教育を組み合わせる事で、社会に出てからの　スキルアップにつなげてもらう。それにより自分達のキャリアデザインの可能性を飛躍させることを目指す		1				
			1	1	1	1	1	
	アニマルセラピー入門	アニマルセラピーに対して自分自身の意見、立場を表明できるようになることが目標である。		1	1			
			1	1	1	1		
	ボランティア入門	ボランティア活動が個人の生活および地域社会にもたらす意味を理解する。ボランティア活動と様々な世界との「つながり」を知る。		1	1			
			1	1		1	1	1
	歯科健康教育	口腔の機能を知り、自分自身の口腔管理ができるようになることが目標である。		1				
			1	1	1	1	1	

文化表現学部　国際英語学科カリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
①英語を「話す」、「聴く」、「読む」、「書く」ための基礎的な力
②英語圏を中心とする異文化を理解する力
③グローバルな視野から物事を考える力
④英語を使用する現場で、身につけた知識に基づき英語を適切に運用する力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
基本科目	Speaking Skills Ⅰ	英語の語彙と文法の力を高め、無理なく自分の考えや意見を述べたり、個人的な情報を尋ねたりできるコミュニケーション技術を身につける。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills Ⅱ	英語の語彙と文法の力を高め、無理なく自分の考えや意見を述べたり、個人的な情報を尋ねたりできるコミュニケーション技術を身につける。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills Ⅲ	会話に必要な英語の基本的な語彙や文法、発音について学ぶ。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills Ⅳ	英語でのコミュニケーション能力をさらに伸ばす。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills Ⅴ	自信を持って英語でコミュニケーションできるようになる。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Speaking Skills Ⅵ	自信を持って英語でコミュニケーションできるようになる。	○	○	○	○		
					○	○	○	
	Writing Workshop Ⅰ	英語で基本的なメールが書けるようになる。また、日常的なトピックについて簡単な話を書く力を養う。	○			○		
					○	○		
	Writing Workshop Ⅱ	身近なトピックについて2つのパラグラフが書けるようになる。また、10分間で100語程度の英語の文章が書けるよう訓練する。	○			○		
					○	○		
	Writing Workshop Ⅲ	自己紹介、故郷や友達について英語で書く。また、英語の技巧を用いて文章が書けるように学ぶ。	○			○		
					○	○		
	Writing Workshop Ⅳ	明快で論理的な英文を難なくかけるように学ぶ。	○			○		
					○	○		
	Reading Workshop Ⅰ	一文一文日本語に訳していくのではなく、ポイントをつかみながら英語のままで文章を理解していくコツを身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	Reading Workshop Ⅱ	一文一文日本語に訳していくのではなく、ポイントをつかみながら英語のままで文章を理解していくコツを身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	Reading Workshop Ⅲ	文の基本構造を意識しながら、文頭から英語の語順のまま読む力を身に付け、日本の文化的特徴、欧米の文化との相違を英語を通して理解・発信できるようになる。	○	○	○	○		
					○	○		○
	Reading Workshop Ⅳ	文の基本構造を意識しながら、文頭から英語の語順のまま読む力を身に付け、日本の文化的特徴、欧米の文化との相違を英語を通して理解・発信できるようになる。	○	○	○	○		
					○	○		○
	TOEIC Basic Ⅰ	目標は以下の3つです。1 リスニングは耳ばかりで行なうものではなく、頭を使って行なうものであることを認識する。2 様々なことを瞬時に判断しながら、英文を的確に聴き取る力をつける。3 この授業で学んだことを、今後どのように活かすかを考える。	○			○		
					○	○		○
	TOEIC Basic Ⅱ	目標は以下の3つです。1 リスニングは耳ばかりで行なうものではなく、頭を使って行なうものであることを認識する。2 様々なことを瞬時に判断しながら、英文を的確に聴き取る力をつける。3 この授業で学んだことを、今後どのように活かすかを考える。	○			○		
					○	○		○
	TOEIC Ⅰ	1 TOEICを受験するに当たって必要な語彙を増強する。2 様々なことを瞬時に判断しながら英文を的確に聴き取る力をつける。3 TOEICのスコアを伸ばす。	○			○		
					○	○		○
	TOEICⅡ	1 TOEICを受験するに当たって必要な語彙を増強する。2 様々なことを瞬時に判断しながら英文を的確に聴き取る力をつける。3 TOEICのスコアを伸ばす。	○			○		
					○	○		○
	英文法Ⅰ	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		
	英文法Ⅱ	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		

	国際英語演習Ⅰ1	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅰ2	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅰ3	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅰ4	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ1	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ2	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ3	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	国際英語演習Ⅱ4	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	○
	卒業演習Ⅰ1	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅰ2	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅰ3	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅰ4	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ1	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ2	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ3	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ4	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○
	エアラインビジネス論Ⅰ	エアライン業務に関する基礎知識を習得し、航空業界への理解を深める。			○	○		
			○	○		○		○
	エアラインビジネス論Ⅱ	エアライン業務に関する基礎知識を習得し、航空業界への理解を深める。			○	○		
			○	○		○		○
	エアライン研究Ⅰ	エアライン業界の全体像を把握し、より実践的な知識を身につける			○	○		
			○	○		○		○
	エアライン研究Ⅱ	エアライン業界の全体像を把握し、より実践的な知識を身につける			○	○		
			○	○		○		○
	エアラインの英語Ⅰ	エアライン業務に必要な英語表現を習得する。	○		○	○		
			○			○	○	○
	エアラインの英語Ⅱ	エアライン業務に必要な英語表現を習得する。	○		○	○		
			○			○	○	○
	エアラインフィールドワーク	エアラインの現場を体験的に学ぶことにより、エアライン業界で必要とされる実践的な知識の向上を目指します。			○	○		
			○	○		○	○	○
	観光ビジネス論Ⅰ	1）観光学を体系的に理解する。2）観光に関する基本的知識を習得する。3）観光と地域との関わりを考える。		○	○			
			○			○		○
	観光ビジネス論Ⅱ	1）観光学を体系的に理解する。2）観光に関する基本的知識を習得する。3）観光と地域との関わりを考える。		○	○			
			○			○		○
	旅行観光業研究Ⅰ	日本の旅行業や観光業の特徴、現状、問題点および課題を学び、旅行観光業界への理解を深めることを目的とする。		○	○			
			○				○	○
	旅行観光業研究Ⅱ	日本の旅行業や観光業の特徴、現状、問題点および課題を学び、旅行観光業界への理解を深めることを目的とする。		○	○			
			○				○	○
	観光英語Ⅰ	観光英語検定2級相当の学力をつけること。特にリスニング問題やディクテーションを繰り返すことにより、英語を「聴く」力をしっかりと身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	観光英語Ⅱ	観光英語検定2級相当の学力をつけること。特にリスニング問題やディクテーションを繰り返すことにより、英語を「聴く」力をしっかりと身につける。	○	○		○		
					○	○		○
	国際観光フィールドワーク	本フィールドワークでは、古都・京都をはじめ、中国・韓国・フランスの古都の比較研究をし、国際的な視野を広める機会づくりを目標としたい。とくに、京都観光文化検定試験や世界遺産検定(京都では17件の寺社・城)の受験指導をも兼ねた体験型学習を行うものである。		○	○			
			○	○		○		○
	ホスピタリティ論Ⅰ	ホスピタリティの基本的な概念を把握する。ホスピタリティの語源と歴史との関連性について理解する。ホスピタリティ産業におけるホスピタリティの役割や特徴を理解する。			○			
			○	○		○		

発展科目	ホスピタリティ論Ⅱ	本講義ではホスピタリティビジネスの業界自体の特性と現況を理解し、どのような諸問題があり、その対応策とは何かを理解することを旨とする。			○			
			○	○		○		○
	国際観光論Ⅰ	国際観光に関する専門用語を理解し、観光ビジネスに関する基礎知識を修得することを目的とし、とくに、世の中の変化を読み取る能力を高めたい。		○	○			
			○	○		○		○
	国際観光論Ⅱ	単に旅行のスキルを身に付けるだけではなく、世界の文化や観光資源に関するマーケティング戦略をグローバル・スタンダードで捉える得る人材の輩出を目標としたい。		○	○			
			○		○	○		○
	Area Studies(Europe)Ⅰ	ヨーロッパの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(Europe)Ⅱ	ヨーロッパの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(North America)Ⅰ	アメリカの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(North America)Ⅱ	カナダの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(Asia＆Oceania)Ⅰ	オセアニアの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Area Studies(Asia＆Oceania)Ⅱ	アジアの歴史や社会、文化を学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Cultural Studies(Popular Culture)	英語圏のポピュラーカルチャーについて学ぶ。		○	○			
						○		○
	Cultural Studies(Women in Society)	様々な時代において、社会が女性たちの人生にどのような影響を与えてきたかを学ぶ。		○	○			
				○	○			○
	Cultural Studies(Media and Society)	現代の文化、ソーシャルメディアや広告、マスメディアについて学ぶ。		○		○		
			○	○	○	○		○
	世界遺産を学ぶ	世界遺産スペシャリストとして認定されている資格「世界遺産検定2級、3級」に合格することを目標とする。		○	○			
			○		○	○		○
	世界の食卓	①世界の家庭料理の背景にある地理的・政治的・経済的・宗教的・歴史的事象が理解できる。②日本を含めた世界の食卓について、英語を用いて説明することができる。		○	○			
				○	○			○
	Advanced English for TOEICⅠ	これまで培ってきた英語力をさらに伸ばし、卒業後の進路も視野に入れて、TOEICでの高得点取得を目指す。	○			○		
					○	○		○
	Advanced English for TOEICⅡ	これまで培ってきた英語力をさらに伸ばし、卒業後の進路も視野に入れて、TOEICでの高得点取得を目指す。	○			○		
					○	○		○
	留学試験の英語Ⅰ	(1)TOEFL受験に備えた4技能を強化する(2)TOEFL受験に備えたボキャブラリーを強化する(3)留学に備えた知識を身につける。	○			○		
				○		○		○
	留学試験の英語Ⅱ	(1)TOEFLの新形式を理解する(2)やや高度な長文が読解できる(3)やや高度な英文が聞き取れる。	○			○		
				○		○		○
	英語圏の文学Ⅰ	文学作品とはたじろぐものではなく、楽しむものだということがわかる。詩を読むということが、どういう作業で成り立っているのかがわかる。また、読んだ作品について、自分の意見を表現できるようになる。		○		○		
				○	○			○
	英語圏の文学Ⅱ	イギリスを舞台に女性たちがどのように生きたかを文学作品を通して考える。現代を生きる私たちのヒントになれば幸いである。		○	○			
				○	○			○
	言語学Ⅰ	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		
	言語学Ⅱ	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
				○	○	○		
	英語史	英語の歴史の正しく理解する。	○	○		○		
				○	○	○		○
	海外実習	異文化に触れて視野を拡げるとともに、実習校において英語の授業を受けることで、英語力を向上させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	海外修得単位	異文化に触れて視野を拡げるとともに、実習校において英語の授業を受けることで、英語力を向上させる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
資格関係	英語科教育法Ⅰ	英語科教育法の流れをつかみ、さまざまな教育法に触れる。学習指導要領が求める授業レベルを実現するために、より良い教育法を考える。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	英語科教育法Ⅱ	学習指導要領が求めるような指導をどのようにしたらできるかを考える。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	英語科教育法Ⅲ	自分なりに考えた授業の指導案を作り実際に模擬授業を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	英語科教育法Ⅳ	自分なりに考えた授業の指導案を作り実際に模擬授業を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
卒業論文・卒業創作		各自が選んだテーマに沿って、論文執筆または作品創作をする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		○

文化表現学部　日本文化創造学科のカリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
① 歴史や文学、日本語や日本文化についての知識・観察力・調査力・問題発見解決能力・論理的思考力。
② 日本語を中心とするコミュニケーション力・表現力。
③ 国語や書道を教授できる知識・技術・指導力。

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
基本科目	日本文学入門	『古事記』上巻に記された神話を読むことで、日本人がアジアを視野に入れて育んだ世界と表現の特徴を知る。	○	○	○			
			○	○	○			○
	日本語学入門	日本語の基礎的知識を身につけ、ことばの科学的な見方、研究を理解し、自分のことばの使い方を磨く。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	日本文学の歴史（古典）	歴史の流れと日本古典文学の流れがどのように関連しているかを理解する。各時代における作品や作者の傾向を把握する。テキストに出てくる用語や熟語の意味を正確に把握する。	○		○			
			○		○	○		
	日本文学の歴史（近代）	おおまかな近・現代日本文学史を理解するとともに、代表的な作家やその代表作について知る。	○		○			
			○		○			○
	中国文学の歴史	中国史の時代的な流れを正確に把握する。各時代の代表的な作品の形式や、内容的特徴などを確実に把握する。中国文学と日本文学の関連について、その実例に触れるとともに、両者の関係の深さを理解する。	○		○			
			○		○			○
	現代の日本語	話しことばの特徴を知り、日本語と日本人の考え方との関係を考え、理解し、いろいろな表現に関心を持ち、調査・研究の能力を高める。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	歴史を探る	平安時代～戦国時代の「武士」をテーマとする基礎的な史料（資料）を読みときながら、情報を整理し、深く分析する方法を学ぶ。歴史的なものの見方・捉え方を身につける。	○		○			
			○	○	○			○
	作品を読む（古典）	古典作品の音読に慣れ、文章の大意をつかみ、作品に記された内容を正確に把握する。作品の背景にある当時の人々の生活やものの見方、考え方を理解する。	○		○			
			○		○	○		○
	作品を読む（近現代）	小説にはどのようなテクニックが用いられているかを知るとともに、作品を精読する楽しさを味わう。	○		○			
			○		○			○
	日本語演習Ⅰ	各種辞典の良し悪しを知り、また使い分けができるようになる。外来語の知識を増やし、外来語の問題を意識して、他者に通じる語の選択ができるようになる。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	日本語演習Ⅱ	各種辞典の良し悪しを知り、また使い分けができるようになる。外来語の知識を増やし、外来語の問題を意識して、他者に通じる語の選択ができるようになる。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	日本文学演習（古典）Ⅰ	上代を中心とする古典文学の基本的な読み方を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	日本文学演習（古典）Ⅱ	上代を中心とする古典文学の、表現の特徴と個性を知る。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	日本文学演習（近現代）Ⅰ	作品を精読する楽しさを味わうとともに、作品研究の能力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	歴史文化フィールドワーク	講義や事前調査で得た知識・情報をもとに、歴史や文化が育まれた現場を訪れて体験し、一つの問題を深く追究する方法を学ぶ。事前調査・発表・実習後の振り返りを通じて、情報を収集し、それを整理できる能力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	観光フィールドワーク	実習の行程を計画して企画書を作成し、それをプレゼンテーションする中で、実践的な企画力・発信力を身につける。事前調査・実習により訪問先の歴史・文化を深く学び、専門的な知識に基づいた観光コースの立案ができるようになる。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	文章表現入門Ⅰ	原稿用紙の使い方、表記法について学ぶ。文章の書き方の基本を身につける。敬語表現の基本をマスターする。	○	○	○			
			○		○	○		○

	文章表現入門Ⅱ	文章の書き方の基本を身につける。手紙文の書き方を学ぶ。	○	○	○			
			○		○	○		○
	漢文を読む	漢文を読めるようにする。漢文に関する基本的な知識（漢字について・漢文の構造・訓読の約束事・句法など）をしっかり身につける。	○		○			
				○	○			
	書写研究	学習指導要領における小・中学校国語科書写の目標、内容を理解し、学習指導に必要な基本となる知識を身につける。実習を通して書写能力を高め、指導法や評価法について理解を深める。			○			
			○	○	○	○	○	○
	書道の基礎（国免）	中学校の国語書写について概要を理解する。学習指導に必要な基礎的な知識を学び、実習を通して実技力を高める。	○		○			
			○	○	○			
	専門演習Ⅰ	各専門分野における研究、創作に必要な知識と能力を身につける。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	専門演習Ⅱ	各専門分野における研究、創作に必要な知識と能力を身につける。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	卒業演習Ⅰ	各専門分野における研究、創作の集大成としての卒業論文、卒業創作のテーマを設定し、構成の見通しを得る。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ	各専門分野における研究、創作の集大成としての卒業論文、卒業創作を完成させる。	○	○	○			
			○	○	○	○		○
発展科目	日本の文化1	茶の湯を通して日本の歴史と文化・美術の形成過程を学び、伝統文化が過去のものではなく、現在の生活のなかにあることを理解する。	○	○				
			○		○	○		○
	日本の文化2	日本の食文化の歴史と特質を理解する。	○					
			○	○	○			○
	日本の文化3	日本の住文化の歴史と特質を理解する。	○					
			○	○	○			○
	日本の文化4	日本の衣文化の歴史と特質を理解する。	○					
			○	○	○			○
	関西の歴史と文化	関西、主に京都を舞台とする歴史や文化の専門的な知識を身につける。過去の日本について学ぶ中で、現在の価値観に縛られず、常識的な見方を相対化できる能力を身につける。	○		○			
			○	○	○			○
	旅と歴史	過去の日本人の「旅」について、歴史的な視点から分析し、旅の意義や現代との共通点・相違点を考察する。歴史史料（絵巻物・文学作品など）を読解し、史料（資料）から情報を抽出する能力を身につける。	○		○			
			○	○	○			○
	マンガで学ぶ日本の歴史と文学	出典となる文献とマンガを読み比べることで、作者たちの関心の所在と表現の特徴を知る。	○		○			
			○	○	○			
	近現代の小説	分析的な読みを通して、作品がどのように創られているかを知り、作品世界をより深く理解し、味わう。	○		○			
			○		○			○
	日本語演習Ⅲ	日本語のバラエティ豊かな語彙や表現について学び、実用的な文章作成や創作活動に役立てる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	日本文学演習（古典）Ⅲ	上代を中心とする古典文学を読み、表現の特徴や個性を理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	日本文学演習（近現代）Ⅲ	近現代の短編小説を対象に作品分析を試み、作品の構造やテーマについての理解を深める。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	日本史演習	辞書などを活用して過去に書かれた文字史料を読解し、歴史の学習に不可欠な調査能力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	創作の基礎Ⅰ	日本語の音やリズムを意識して文章作成する。異なる文体を使い分け、様々なスタイルの文章を作成する。社会事象を調査・取材し、考察したことを創作に反映させる。	○	○				
			○	○	○	○		
	創作の基礎Ⅱ	読者層や文体など、文学ジャンルによる違いを理解する。先行作品を研究し、文学作品の各種パターンを踏襲し習得する。独創性のある人物造形と世界観によって、文学作品を構想する。	○	○				
			○	○	○	○		
	作品を創るⅠ	パソコンを利用する際の常識を理解する。作品の個人出版のためのデータ編集作業の技術を身につけ、Webで自在にデータをやりとりしたり、自分のHPを立ち上げられるようになる。	○	○				
				○	○	○		○
	作品を創るⅡ	パソコンを使って、短編作品の創作と紙媒体への展開を行う。企画設定と編集作業を行い、決められたサイズと書式での創作を体験する。長さの違う短編作品の創作を体験し、文章のまとめ方を学ぶ。各自、得手不得手の長さを感覚的に掴む。	○	○	○			
			○	○		○	○	

	Web出版	Webを用いて公開する作品の企画や制作を担当する。プレゼンテーションを重ね内容を充実させ、完成した作品をインターネット上で公開する。	○	○				
			○	○	○	○		○
	書道の基礎（書免）Ⅰ	楷書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
			○	○	○			○
	書道の基礎（書免）Ⅱ	隷書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
			○	○	○	○		
	書道Ⅰ	行書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
			○	○	○			○
	書道Ⅱ	仮名の成立過程と仮名書法の関係を理解する。仮名書法の基本を習得する。「高野切古今集」の学習を通して、古筆の臨書方法を理解する。	○		○			
			○	○	○	○		○
	書道Ⅲ	仮名古筆の文字造形や線質を基本として、仮名書美の多様性を知り、そこに現代的感覚を盛り込んでいく。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	書道Ⅳ	大字仮名作品の歴史を踏まえ、現代仮名作家の文字造形や線質を参考にしながら大字仮名作品の制作を通して、その美について探求する。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	書道の歴史Ⅰ	中国書道史について理解する。	○		○			
			○	○	○			○
	書道の歴史Ⅱ	日本書道史について理解する。	○		○			
			○	○	○			
	書論研究Ⅰ	中林梧竹の「梧竹堂書話」を用い、書道の理論の理解を深める。	○		○			
				○	○			
	書論研究Ⅱ	『書譜』『東坡題跋』『画禅室随筆』などを用い、中国の書論への理解を深める。	○		○			
				○	○			○
	秘書学総論	秘書という職務の歴史や意義、その役割や最適な行動をとるための思考等を理論的に学ぶ	○					
			○		○			○
	秘書実務1	秘書の実務に必要な知識・技能を学ぶとともに、コミュニケーション力やマナー等の社会人基礎力を身につける。		○				
			○	○	○	○	○	○
	秘書実務2	秘書実務に必要な知識・技能を学ぶとともに、プレゼンテーション力や課題解決力等の社会に求められる実践力を高める。		○				
			○	○	○	○	○	○
	硬筆書写	硬筆において、書美を日常の書に活かすことができるように、必要な知識と技術を身につける。	○	○				
			○	○	○	○		
資格関係	国語科教育法Ⅰ	高等学校の国語科教育の概要を理解し、学習指導法の基本を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	国語科教育法Ⅱ	高校国語の教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って国語を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	国語科教育法Ⅲ	中学校の国語科教育の概要を理解し、学習指導法の基本を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	国語科教育法Ⅳ	中学国語の教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って国語を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	書道科教育法Ⅰ	芸術科書道教育の概要について理解し、学習指導法の基本を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	書道科教育法Ⅱ	教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って書道を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
卒業論文・卒業創作・卒業制作		学習の総まとめとしての卒業論文・卒業創作・卒業制作を完成させる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○

文化表現学部　情報メディア学科カリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
① 情報メディアを駆使して、新たな文化を創造できる知識と技能を習得している。
② 情報をグローバルに把握し、情報発信の担い手として社会に貢献できる能力を習得している。
③ 幅広い医療分野の知識と情報メディアを活用した事務処理能力を備え、社会に貢献する強い意志を持つ。
④ 社会のトレンドに鋭敏な感性を持ち、豊かな個性を表現し発信できる知識と技術を習得している。

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
基本科目	情報メディア基礎演習	ノートPCの基本的仕組みを知り、基本的な保守点検とトラブル時の対処ができる。ネットワークに接続し、メールを活用できる。セキュリティ・著作権に配慮できる。プロジェクトを立ち上げ課題を遂行し、成果を発表する方法を知る。	○	○	○			
				○	○	○		○
	Webサイト制作基礎	基本的なホームページを作成できる。画像やハイパーリンクの挿入ができる。他者が閲覧しやすいホームページの表示方法を知る。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	オフィスアプリケーションⅠ	他者との協調・協働を促進するためのプレゼンテーションの方法を習得する。画像の挿入や表・グラフによるデータの表示、アニメーションの利用等による効果的な表現ができる。	○	○				
				○	○	○	○	○
	情報検索論	情報検索の仕組みを理解し、基本的な検索スキルにより必要な情報を取得できる。各種検索サイトの特性を知り、活用できるようになる。	○	○	○			
				○	○			○
	Webコンテンツ基礎	様々なツールを用いて画像を加工し、魅力あるコンテンツ作成の方法を身につける。CSSを用いて、効果的なコンテンツ表現ができるようにな	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	オフィスアプリケーションⅡ	データを他者と共有し、効率的なデータ管理ができるようにデータベースを作成できる。用途に合わせてデータベースを活用できる。	○	○				
				○	○	○	○	○
	マスコミ概論	マスコミで必要とされる表現力、なかでも「聞く力」「書く力」を身につける。各自の考えを正確に伝えることができるようになる。	○	○				
			○	○	○	○		○
	ビジネス基礎論	経営学に関する基礎的な理論を体系的に理解し、実際の事例に対し、適切な問題設定と分析、提言ができる。		○				
				○	○	○		
	ファッション情報概論	情報メディアを駆使して、必要なファッション情報を的確に収集し、その情報を活用する技術を習得する。	○	○		○		
				○	○	○	○	
	デザイン基礎論	デザインの構成要素について説明できる。コンテンツの企画・制作ができる。デザインのアウトプットができる。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	Visualプログラミング	様々なサンプルプログラムの制作を通して学んだ内容を応用し、自力で簡単なWindowsプログラムが作成できるようになる。	○	○				
				○	○	○		○
	情報アドミニストレーション	コンピュータを構成するハード・ソフトについて理解する。ネットワークの仕組みについて学び、情報共有を活用できる。情報社会を支えるセキュリティについて理解し、自身の情報セキュリティ設定をチェックできる。	○	○	○			
				○	○		○	○
	情報マネジメント	企業の情報マネジメントの基礎的な項目を理解する。他者とのプロジェクト作業におけるPDCAのサイクルを理解する。	○	○	○			
				○	○		○	○
	図書館情報資源概論	図書館に収集される情報資源の類型と特質について説明できる。図書館がどのように情報資源を収集し、保存し、コレクション形成していくのか、その維持・発展に関わる様を説明することができる。出版業界を取り巻く環境の変化や業界が抱える問題点について、説明することができ	○	○				
				○	○			○
	情報サービス論	図書館における情報サービスの種類や特徴について説明することができる。テーマ別にレファレンス資料を分類することができる。	○	○				
						○		○
	サウンドデザイン論	メディアを活用してサウンドをデザインするための知識と技術を学び、各自の想いを音で表現できるようになる。	○	○				
			○	○	○			○
	図書館情報技術論	図書館運営やサービスの提供に関わる情報技術全般について理解する。図書館サービスにおける情報メディアの活用について学ぶ。	○	○				
				○	○		○	○
	カラーコーディネイト論	実際に配色の効果を考えたプレゼンテーションのスライドを作成できる。カラーコーディネイトの理論を理解し、それを実践できる。	○	○		○		
			○	○	○			○
	3Dグラフィックス	新たな情報の表現手法である3Dグラフィックスについて学び、基本的な3Dモデリングとアニメーションの設定ができる。	○	○				
			○	○	○			○
	映像制作論	様々な作品に隠されたテクニックを分析し理解することで、自分の作品へとつなげていく能力を身につける。	○	○				
			○	○	○			○
	情報メディア演習Ⅰ	情報メディアの各分野毎に、必要となる問題発見・解決のための基礎知識とスキルを習得し、他者との共同作業による実践的な課題の遂行および発表を行うことができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○

	情報メディア演習Ⅱ	各専門分野の理解を深めるとともに、情報メディア演習Ⅰで習得した問題解決能力をさらに発展させ、高度な課題に取り組むことができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	卒業演習・制作Ⅰ	各専門分野における具体的な研究テーマを設定し、必要となる知識・スキルを習得しながら、問題提起・解決法の提示・検討を繰り返すことができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	卒業演習・制作Ⅱ	卒業論文・制作の研究テーマについて議論を進め、独自の結論を導き出し、全体の成果をまとめて発表することができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
発展科目	広告入門	広告に関する基礎知識を身につけ、広告の多様さを知るとともに、特定のテーマに関する広告を企画できるようになる。	○	○				
			○	○	○	○		
	発音・発声基礎実習	アナウンサーに必須の発声・発音の正確さをより深く理解し、滑舌練習を中心に正しい日本語で話せるように特訓する。繰り返し練習で苦手をなくす。		○		○		
			○	○	○	○	○	○
	マスコミ研究 Ⅰ, Ⅱ	Ⅰ：マスコミの表現を学びながら、並行して「文章力アップのための6つのステップ」を修得する。 Ⅱ：全員で一冊の雑誌を作り、その過程で文章、イラスト、写真、デザイン、編集、校正等、雑誌作りに必要な技法を学ぶ。学外研修（京都の出版社）も実施する予定。	○	○				
			○	○		○	○	○
	広告・コピーを創る Ⅰ, Ⅱ	Ⅰ：印刷媒体、特に新聞広告のキャッチフレーズを分析し、その表現手法を学ぶ。 Ⅱ：ラジオCMの発想法を学び、次にテレビCMの企画コンテの制作にチャレンジする。	○	○				
			○	○	○	○	○	
	アナウンサー基礎Ⅰ	情報伝達のための正確なアナウンスメントとは何かを知り、各自が練習により実践できるようになる。						
			○	○	○	○	○	○
	アナウンサー基礎Ⅱ	正確なアナウンスメントを第1目標として練習を繰り返し、完成度の向上を目指す。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	アナウンサー演習Ⅰ	アナウンサーという職業を目指し、要求される条件を認識しながら、女性として美しい日本語アナウンスができるよう練習する。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	ジャーナリズム論	文章と映像と音楽を融合させた表現であるカットノベルの作成を通して、ジャーナリズムとは何かを理解する。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	番組制作	番組制作に必要な基本的知識と作業手順について学び、実習における自主的な創作活動につながるよう準備する。	○	○				
			○	○	○		○	
	アナウンサー演習Ⅱ	正確さは基本的条件として、さらに高度な、より女性らしいおしゃれな話し方ができるよう努力する。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	Webデザイン	自ら情報発信できるコンテンツをもつ。企画のプレゼンテーションができる。一般公開可能なWebページの制作ができる。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	グラフィックデザイン	身近な情報のリサーチと誌面の企画ができる。ロゴやイラストのデザインができる。DTPによる誌面デザインができる。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	プログラミング	情報メディアを活用するためのプログラミング技術について、その初歩からはじめ、最終的にはウィンドウプログラミングの仕組みと手順まで理解する。	○	○				
				○	○			
	プログラミング実習	プログラミングに必要な考え方（アルゴリズム、データ構造）を理解し、設定した目標を達成するための指針を立てて実行できるようになる。	○	○				
				○	○	○		
	グラフィックアート	発想から作品制作、完成にいたるまでの流れを経験し、他者の作品を鑑賞する力を身につける。	○	○				
			○	○	○	○	○	○
	システム基礎論	情報処理システムを設計するための基本的流れと技法について理解する。特にオブジェクト指向プログラミングに焦点を当て、共同作業の際に必要となるUMLの作成技法を習得する。	○	○				
				○	○			○
	Webアニメーション	JavaScriptによるアニメーションの作成方法を学び、閲覧者にとって使いやすいユーザーインターフェースが作成できる。	○	○				
				○	○		○	○
	ゲーム制作論	ゲーム制作現場での作業工程を理解し、オリジナルのゲーム企画案を作成する。新たなメディアの担い手となるための技術を習得する。	○	○				
			○	○	○		○	
	インテリジェントプログラミング	人工知能（AI）の仕組みと機能、および活用の広がりについて知り、実際にプログラム言語Pythonを使って，AIを活用したソフトウェアの作成方法を学ぶ。	○	○		○		
			○	○	○	○	○	○
	3Dアニメーション	新たな表現手法である3Dアニメーションを制作するための基本的知識と技術を習得する。キャラクタを使った3Dアニメーションを制作できる。	○	○				
				○	○			○
	ゲームプログラミング	具体的な3Dゲームのサンプルを学びながら、プログラミング技術を習得する。実用的なゲームを作成できるようになる。	○	○				
				○	○			○
	医療事務総論	医療事務に携わる者として必須となる知識を学ぶ。医療機関における関係法規・関係機関の運営や管理について理解する。		○	○			
			○	○	○	○	○	
	医療秘書学	医療秘書に対する理解を深め、医療秘書としてふさわしい素養、接遇対応を身に付け、医療機関という特殊な場所での仕事について理解する。			○			
			○	○	○	○	○	
	医療管理学概論	医療事務に必要な法令、病院の組織、運営、診療情報や管理についての専門知識を学ぶ。患者や家族の悩みや不安に対する相談援助の基礎知識を身につける。			○			
			○	○	○		○	
	医学一般	医療に携わる者として必要な医学全般の基礎的知識を習得する。内容としては人体の解剖・生理、一般的な傷病、一般的な医学・医療用語(略語含む)、一般的な検査と傷病又は臓器との関連、代表的な薬効別薬品名と適応症と関連した			○			
			○	○	○		○	

	情報サービス演習Ⅰ	図書およびWebアーカイブ等のデータベース検索を通じて、情報検索に関する基本的な知識と技術を学ぶ。	○	○				
				○	○	○		○
	診療報酬請求事務	医療事務の具体的業務内容として、診療録(カルテ)より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成することができる。			○			
				○	○			
	社会福祉概論	現代社会における福祉制度の意義を理解し、日常的な生活問題と福祉政策との関連性や福祉の原理をめぐる理論について理解する。また、現代の保健医療福祉問題の見識も広める。	○		○			
			○	○		○		○
	情報サービス演習Ⅱ	レファレンスサービスの演習を通じて、レファレンスツールの特質及び利用法を習得する。	○	○				
			○	○	○	○		○
	医療事務特講	医療の現場において医療事務(秘書)員に求められる知識・技術を、実践的な事例を通じて習得する。		○	○			
			○	○	○	○	○	
	児童ソーシャルワーク	児童家庭福祉の理念と制度の概要について学ぶ。児童と保護者に対するソーシャルワークの基礎を理解する。現代社会における児童の生活と課題について学ぶ。			○			
			○	○		○		
	図書館情報学概論	図書館の社会的役割について説明できる。各種図書館の特性や利用者ニーズについて解説できる。専門職としての図書館司書の資質と技能を理解する。図書館の自由とは何かを理解し、課題について考察できる。	○	○				
				○	○			○
	図書館サービス概論	図書館サービスの基本的な理解を図る。図書館利用者のニーズを把握し、適切なサービスを提供できる。	○	○				
				○		○		○
	図書館制度・経営論	図書館に関わる制度と公共機関の経営の基本的な理解を図る。図書館の社会的重要性を理解する。		○				
				○	○		○	
	アパレル基礎論	アパレル業界に関する基礎的な知識や技術を学ぶ。また、魅力的な商品を企画し、サンプルを製作することで、商品への理解を深め、実践的に顧客のニーズに応えるサービスを検討する。		○		○		
			○	○	○			
	ファッションビジネス論	ファッション業界の機構とその果たす機能、社会・経済的な変化、それに伴う消費者の意識や購買意欲の変化など把握する。	○	○		○		
			○	○	○			○
	ファッションデザイン実習	テーマを調査・分析し、アイディアをかたちにすることができる。自分のイメージを他者に的確に伝達する方法を習得する。	○	○		○		
			○	○	○			
	ファッション史	各時代を代表する特徴的なファッションに関する知識を習得し、社会的背景や芸術様式との関連について知見を深める。	○	○		○		
			○	○	○			○
	ファッション雑誌研究	西洋における女性雑誌の変遷を知り、そのなかでファッションがどのような役割を果たしたのかを理解する。実際にファッション記事を作成し、表現手段としてのファッション雑誌を理解する。	○	○		○		
			○	○	○			○
	アパレル制作実習Ⅰ	被服に関する総合的な知識と技術を習得する。アパレル生産の製品化の流れと仕様を学び、ブラウスおよびスカートを制作する。		○		○		
			○	○		○		
	アパレル制作実習Ⅱ	体型に合わせた作図方法を理解し、自分のデザインを作図し、パターンにすることできる。トレンドの要素を取り入れ、デザインしたスカート・パンツの製作を通して、作図方法、各種素材の扱い方、縫製技術、を習得する。	○	○		○		
			○	○		○		
	ファッションカルチャー論	19・20世紀におけるファッション現象についての重要事項を把握する。現在のファッション現象を収集・分析する力を養う。	○	○		○		
			○	○	○			○
卒業論文・卒業制作		情報メディアを駆使して、専門分野の情報収集・検索・整理ができる。新たな情報メディア文化を創造する能力を身につける。社会に貢献できる知識と技能を習得する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○

心理こども学部　こども学科カリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
①小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての知識、技術、倫理を修得し、児童教育、幼児教育、保育の現場で実践する力
②こどもと保護者、さらにはこどもを取り巻く地域社会におけるさまざまな問題を発見し、解決する力
③こどもや保護者との適切な関わりと信頼関係の構築、関係機関との協働関係を築くためのコミュニケーション能力
④小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての総合的な表現力
⑤児童文学と絵本についての理解と、伝達、創作、研究の基礎的な力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
必修科目	こども学入門	こどもに関する思想・こどもの文化についての基礎的な知識を身につける。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
本質・目的	教育原理	近代における子どもの発見の歴史と、それを出発点とする2方向の子ども観を理解することによって、近代教育の在り方を問い直すとともに、近代教育を超える新しい教育の可能性を考えていく視	○	○	○			
			○	○	○	○		
	保育者論	保育者の業務内容を理解し、自身の内面を見つめながら保育者の姿勢について熟考する。子どもの前に立つ者としての自覚をもち、保育者の役割について理解し自身の資質を研鑽する。	○	○	○			
			○		○			
	教師論（初等）	授業への主体的な参加によって、通念的な教師の在りようを問い直し、多義的な教育理解に開かれる教師としての基礎理解を養うことが目標である。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	教育社会学	教育現象を客観的に把握・分析することができるようになること。自分自身で考える力を身につけること。論理的に物事を考え、表現する力を養うこと。	○	○	○			
			○	○	○			
	保育原理	保育における保育者のかかわりの重要性を理解し保育に関する基礎的、歴史的知識を習得する。	○	○	○	○		
			○		○			
	社会福祉	社会福祉のしくみ、方法、考え方について理解し、保育現場で役立てることができるようになる。	○	○				
			○	○	○			○
	子ども家庭福祉	保育実践に必要な児童家庭福祉に関する基礎的知識を習得する。	○	○	○			
				○	○			
	社会的養護Ⅰ	社会的養護を必要とする子どもたちの実態と支援の仕組みについて理解し、実践の現場で活用できるようになる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
対象の理解	発達心理学	子どもたちの主体的な学びを支える心の発達過程を理解する。また、生涯発達における初期経験の重要性を基に、保育・教育者としての家庭支援のあり方を考える。	○	○	○			
			○	○	○			
	保育の心理学	心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。発達に即した援助 の基本となる子どもへの理解を深める。子どもの発達、学びの過程や特性に関する内容を体系的に理解するとともに、子どもと家庭に関して包括的に理解す	○		○			
			○		○	○		
	初等生徒・進路指導論	①生徒指導提要の内容を理解する、②児童生徒指導と進路指導の具体的な方法とそれらの意義を理解する。③児童生徒指導と進路指導における現代的課題に基づき、教師の担うべき役割を	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	教育相談	①教育相談の意義と役割（学校内外の関係者との連携を含む）を理解する、②カウンセリングの基本的技法を習得する、③児童やその保護者の抱える心の諸問題の理解を深め、支援のあり方	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	幼児理解・教育相談	子どもを理解 する上での基本的な考え方を理解するとともに、そのための具体的方法を理解し、保育士の援助や態度の基本について理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○		
	子どもの保健	子どもの保健全般についての基礎知識を習得することにより、保育士として必要な子どもの健康・保健等に関する視点を養う。	○	○				
			○	○	○			
	子どもの健康と安全	乳幼児のこころとからだの健康を保持増進するための援助が実践できるとともに、援助をするときにどのような知識や配慮が必要か理解できる	○	○				
			○	○		○	○	
	子どもの食と栄養A	保育・幼児教育に携わる者として、栄養・食生活に関する正しい知識を習得し、子どもの食生活を豊かにする能力を身に付ける。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	○
	子どもの食と栄養B	保育・幼児教育に携わる者として、栄養・食生活に関する正しい知識を習得し、子どもの食生活を豊かにする能力を身に付ける。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	○
	子ども家庭支援論Ⅰ	子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ど も家庭支援の意義と基本について理解する。	○	○				
			○	○	○			

	子ども家庭支援論Ⅱ	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状、課題について事例を通して具体的に理解する。	○	○				
			○	○	○			
教育内容・指導法	国語科内容論	（1）小学校国語科教育の各学年の目標と内容、幼稚園における国語教育を理解する。（2）新学習指導要領（幼稚園要領）のねらいと小学校国語科教育、幼稚園国語教育の内容と関わりについて理科宇する。（3）小学校教育の現代的課題と小学校国語科教育内容の関連について理解する。（4）小学校国語科教育内容とカリキュラム・マネジメントの関連について理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	社会科内容論	(1)小学校社会科教育の各学年の目標と内容を理解する。(2)新学習指導要領のねらいと小学校社会科教育内容との関わりについて理解する。(3)小学校教育の現代的課題と小学校社会科教育内容の関連について理解する。(4)小学校社会科教育内容とカリキュラム・マネジメントの関連に	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	算数科内容論	(1)小学校算数科教育の各学年の目標と内容、幼稚園における算数教育を理解する。(2)新学習指導要領(幼稚園要領)のねらいと小学校算数科教育、幼稚園算数教育の内容との関わりについて理解する。(3)小学校教育の現代的課題と小学校算数科教育内容との関連について理解する。(4)小学校算数科教育内容とカリキュラム・マネジメントとの関連について理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○			
	理科内容論	(1)小学校理科を指導するのに必要な，観察・実験の授業スキルを習得する。(2)教育実践現場で理科指導に自信を持って臨めるようになる。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	生活科内容論	（1）生活科の目標と内容を説明できる。（2）教育の現代的課題の観点から生活科の教育内容を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	家庭科内容論	小学校家庭科の指導に必要な知識や技術を習得するとともに、子どもの生活課題を踏まえた指導について理解を深め考察する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	外国語（英語）の内容論	小学校における外国語（英語）活動・外国語（英語）科の授業実践に必要な実践的な英語運用能力と英語に関する英語教育に必要な背景的な知	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	国語科指導法Ⅰ	国語科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	国語科指導法Ⅱ	国語科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	社会科指導法	社会科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	算数科指導法Ⅰ	算数科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	算数科指導法Ⅱ	算数科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	理科指導法	理科科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	生活科指導法	生活科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	音楽科指導法	音楽科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	図画工作科指導法	図画工作科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	

	家庭科指導法	家庭科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	体育科指導法Ⅰ	体育科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	体育科指導法Ⅱ	体育科指導法における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学修指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	道徳教育の指導法	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解するとともに、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び道徳科における指導計画や指導方法を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	特別活動の指導法	①特別活動の目標や内容、特質を理解する−人間形成に果たす特別活動の役割・機能を理解する。②学級活動（ホームルーム）運営に必要な事柄を理解する−学級活動の年間指導計画が作成できる。③特別活動の評価の在り方（学級活動の評価）を理解する一特別活動各分野の評価の在り方や学級活動の評価の方法を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	特別支援教育	①特別の支援を必要とする幼児、児童の障害の特性及び心身の発達を理解する、②特別の支援を必要とする幼児、児童に対する教育過程や支援の方法を理解する、③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	外国語（英語）の指導法	小学校における外国語活動（中学年）・外国語の学習（高学年）における、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
内容・方法	保育・教育課程論	保育者として最小限必要な下記の5つの資質能力を身につける。（1）保育者としての使命感や責任感、教育的愛情（2）社会性や対人関係能力（3）乳幼児理解能力や学級経営力（4）保育内容の指導力（5）表現力	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	教育方法論	①今までに学んできた考え方や技術を基盤にして、自らの意見を述べたり、書いたりできるようにする。②今までに学んできた考え方や経験をもとに、こども理解を深め記録できるようにする。③今まで経験したことを基盤に部分保育を企画、実	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	保育内容総論A	保育計画立案の意義、保育方法や援助、保育技能等、保育者としての基本的能力を習得し、子どもを主体とした実践の理解を深めていく。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	保育内容総論B	①保育計画の立案の意義を明確にし、現場で必要な指導計画・指導案作成について理解する。②保育活動（実習）を、可能にするための、保育方法や援助、保育技能等基本的能力を身につける。③保育内容を多面的に捉え、子どもを主体とした実践への理解を深める。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	保育内容（健康）	子どもの健康に関する知識を得ると同時に、具体的な実技や保育現場の実践資料などによって、より深く理解する。また現在の保育現場にある課題を見つけ出し、解決する方法を考える力を身に	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育内容（人間関係）	領域「人間関係」のねらいと内容と社会的行動の育ちの道筋を理解する。その上で、社会性発達をねらいに据えた保育活動を立案できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	保育内容（環境）	幼児の発達における環境の意義と役割を理解することによって、幼児が様々な環境と豊かな関わりをもてるように援助していく力を養う。	○		○	○		
			○	○		○	○	
	保育内容（言葉）	①乳幼児期の言葉の発達が理解できるようになる。②言葉を育む基礎的知識、技術を習得する。③模擬保育や指導案作成を通して具体的保育技	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	保育内容（表現）	学生自ら表現することから、保育現場で心弾ませて乳幼児の目の高さで、表現豊かに読み、歌い、弾き、心を通わせる保育者としての表現力に出	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	乳児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的を理解する。|3歳未満児の心身の発達を学び、この時期に携わる保育者の専門性を深める。|日本の保育制度、子育て環境の変化、子育ての価値観の変容を交えて学ぶ。|保育者間の連携、保護者との連携を理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅰで習得した基礎内容から、実践的な技術習得を目指す。具体的には、乳児の安全な生活について、情緒を豊かにする遊びについて、保護者への連絡方法について学ぶ。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	障害児保育	障がい特性の理解とかかわり方の基本姿勢を身につける。また、地域の関係機関の役割や連携方法、保護者支援について理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		

	社会的養護Ⅱ	保育士・児童指導員に求められる養育・支援の基本的技術の体得を目指す。	○	○	○	○		
			○				○	
	子育て支援	保育士の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本 の提示等の支援（保育相談支援）について、特性と展開を具体的に理解する。様々な場や対象に即した支援の方法と技術を具体的に理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	子育て政策論	子どもと家庭に関する多様な施策について幅広い知識をもち、他制度との有機的　連携の中に保育サービスを位置付ける視点を習得する。子育て支援が必要な 背景と意義、多様な子育て支援の現状とその政策について理解する。	○	○				
			○	○	○			○
	保育指導法	子どもの発達と興味関心に応じた保育実践について習得を目指す。	○		○	○		
			○		○			
表現・技術	音楽の演習1A	ピアノの基礎技術と読譜力を修得する。また保育者としての豊かな表現力を培う。	○			○		
			○	○	○	○	○	
	音楽の演習1B	ピアノ奏法の応用と読譜力を修得する。さらに保育者としての豊かな感性と表現力の向上をめざす。	○			○		
			○	○	○	○	○	
	音楽の演習2A	保育現場に必要な保育技術と表現力の向上を目標とする。	○			○		
			○	○	○	○	○	
	音楽の演習2B	保育現場に必要な保育技術と表現力の向上を目標とする。	○			○		
			○	○	○	○	○	
	音楽の演習3A	保育者としての音楽に対する感性を高め幼児の感性をも豊かに育てるための表現力を身につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざす。	○			○		
			○	○	○	○	○	
	音楽の演習3B	保育者としての音楽に対する感性を高め幼児の感性をも豊かに育てるための表現力を身につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざす。	○			○		
			○	○	○	○	○	
	図画工作1	小学校図画工作の指導に必要な、基本的な材料用具の扱い方と技法を身につける。制作の指導方法について理解を深め、子どもへの適切な働きかけができるようになる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	図画工作2	小学校図画工作の指導に必要な、基本的な材料用具の扱い方と技法を身につける。制作の指導方法について理解を深め、子どもへの適切な働きかけができるようになる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	造形	制作実技を通して、表現の楽しさを実感しつつ、指導者に不可欠な豊かな感性と想像力・表現力を養う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	体育	（1）小学校体育科教育の各学年の目標と種目別の内容を理解する。|（2）学習指導要領のねらいと小学校体育科教育内容との関りについて理解する。|（3）小学校教育の現代的課題と小学校体育科教育内容の関連について理解する。（4）小学校体育科教育内容とカリキュラム・マネジメントの関連について理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	幼児体育	保育の現場で使用する体育用具および遊具について、子どもの発達に応じた使い方や援助ができるようになることを目的とする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	物語伝達の理論と演習	①教材作成の過程で、創造性を発揮して環境構成の工夫ができるようにする。②作品が乳幼児の情緒の発達に適当であるかを考察し、作品を通して子ども理解を深めるようにする。③教材作成を経験することで保育者として、児童文化のあ	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○		
	こどもの表現活動	「表現とは何か」という根源的な問いに向き合いながら、こどもの感性や創造性を豊かにする様々な表現活動について実践的に学び、表現活動を支援する専門的事項についての知識・技能・表現力等を習得する。	○	○	○	○		
			○	○		○	○	
	自然とあそびのワークショップ	「遊んで学ぶ」であることに触れることを大きな目標とします。親子行事や園の活動を経験する中で、遊びの楽しさを味わう。	○	○	○	○	○	
			○	○		○	○	
	おもちゃ学演習	こども達の行動分析を行いながら幼児の知能や情緒形成、認知的発達の仕組みを理解し、今後の子どもに関わるキャリアにつなげる。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	○
	漢字の研究	小学校の国語教育において重要な位置を占めている漢字について研究し考察を深める。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	こどもの科学演習	子どもたちに科学的なものの見方や考え方、興味・関心のもたせ方などを具体的な実験、観察、工作などを通じて指導する方法について実践的	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	

児童文学・絵本	日本児童文学講義	各地に伝えられた昔話と、絵本やアニメの再話作品との違いや特徴を理解する。どのような再話作品を子どもたちに伝えたいかを考える。					○	
			○	○	○	○		
	外国児童文学講義	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の文化や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶ。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力を養い、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことを目指す。	○			○	○	
			○	○	○	○		○
	絵本学講義	①理念やその歴史、多様な視点やテーマから「絵本」というものの特性を理解する。|②1冊の絵本を丁寧に読み解く視点を身に付け、その深さを理解し、表現することができる。|③絵本と子ども、絵本と社会との関連を考察する力をつける。	○	○			○	
			○		○			○
	絵本読み語りの理論と演習１	絵本の世界を子どもたちに伝えるための知識と能力を養う。	○		○	○	○	
			○	○		○	○	
	絵本読み語りの理論と演習２	絵本の世界を子どもたちに伝えるための知識と能力を養う。	○		○	○	○	
			○	○		○	○	
	児童文学制作基礎	原稿用紙5～10枚程度の物語を創作する。または、5見開きの絵本テキストを創作する。					○	
			○	○	○	○	○	○
	児童文学作品制作A	アイディアから構想、実作を経て、世界にひとつだけの物語を作ります。|前期は主にお話のタネ探しを中心、柔軟な発想力を手に入れましょう。					○	
			○	○	○	○	○	
	児童文学作品制作B	アイディアから構想、実作を経て、世界にひとつだけの物語を作り上げます。|後期は絵本テキストと短編童話をかき上げ、合評します。					○	
			○	○	○	○	○	
	絵本制作基礎	絵本の鑑賞と制作実技を通して、絵本の持つ意義、楽しさ、面白さを発見する。	○		○	○	○	
			○		○			
	絵本作品制作A	絵本の持つ意義、楽しさ、面白さを発見するとともに、絵本における多様な表現法・技法を理解し、自らの絵本制作に応用することを目指す。完成した絵本を、絵本制作展へ出展する。	○		○	○	○	
			○		○			
	絵本作品制作B	絵本作品の制作を通して具体的な絵本成り立ちを学習する。自分で発想したアイデアに自分で絵を付けるという体験を通して絵本への興味と理解を深める。絵本を作って与える側に立つということ、クリエイティブな作業の楽しさやむずかしうこを	○		○	○	○	
			○		○	○		
実践演習	教職実践演習（小学校）	小学校教諭養成課程の集大成の必修科目として学習知と実践知との統合を図り、使命感や責任感、実践的指導力等、保育者に最小限必要な資質能力の形成の確認を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	保育・教職実践演習（幼稚園）	保育士・幼稚園教諭養成課程の集大成の必修科目として学習知と実践知との統合を図り、使命感や責任感、実践的指導力等、保育者に最小限必要な資質能力の形成の確認を行う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
実習	教育実習（初等）	教職課程（幼稚園または小学校）においてこれまでに修得した知識や技術を、総合的に実践する応用力を養う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	実習の目的、内容、方法等を具体的に理解する。実習開始までの事前準備、実習生としてのマナー、実習記録の方法、指導計画の作成方法等を身につける。また実習を評価・反省し、実習後の実習課題を明確にする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習Ⅰ（保育所）	実習を通して、保育の実際を体験的に学ぶ。講義を通して得た専門的内容を生かして実習に取り組み、担当保育者の指導を受けながら保育に必要な知識、技術、態度の習得に努める。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	実習の目的、内容、方法等を具体的に理解する。実習開始までの事前準備、実習生としてのマナー、実習記録の方法、指導計画の作成方法等を身につける。また実習を評価・反省し、実習後の実習課題を明確にする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習Ⅱ（保育所）	特色ある保育の方法を習得する。担当保育者の指導を受けながら、こどもたちの興味関心をくみ取った指導計画を立案し、実践する。保育者を目指す者として、今後の学習課題を明確にする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習Ⅰ（施設）	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	保育実習指導Ⅲ（通所施設）	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	

	保育実習Ⅲ（通所施設）	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	幼稚園現場体験	幼稚園の現場を観察し、実体験をすることによって、子ども理解を深め、幼児教育・保育に関する問題意識を高める。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
応用	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	子どもの健全育成の考え方と課題を理解する。また、実践の場である児童館・放課後児童クラブの機能を理解する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	児童館、放課後児童クラブの活動内容を理解する。年間を通しての活動内容の理解と行事や活動内容の立案と実施ができる。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	在宅保育	家庭訪問保育の理論と実際、家庭訪問保育者としての基本姿勢、また保育の実践を行う場合に必要な具体的事柄を学ぶ。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	リトミックⅠ	子どもたちと身体全体で音楽を楽しみながら、子どもたちの心と身体のバランスを育み、感覚を磨き、知性の基礎をつくる専門家としての知識を習得する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	リトミックⅡ	子どもたちと身体全体で音楽を楽しみながら、子どもたちの心と身体のバランスを育み、感覚を磨き、知性の基礎をつくる専門家としての知識を習得する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	レクリエーション概論	日本レクリエーション協会が示しているレクリエーションインストラクター養成カリキュラム（基礎理論、支援論、事業論）の内容を理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	レクリエーション支援法	できるだけ多くのレクリエーション財を体験することで、楽しさの本質や指導者としてのコミュニケーション技術を学ぶ。	○	○	○			
			○	○		○	○	
	レクリエーション実技	レクリエーション活動の効果は、実技の内容に加えて心理的なもの、すなわち指導法の演出能力が大きく問われる。その内容とは活動を展開する場所・日時・集団などによって多種多様で、それらに対応できるようにする。	○		○	○		
			○	○		○	○	
	レクリエーション現場実習	大阪府および市区町村のレクリエーション協会の活動内容、また、行事、イベント等で指導者の働きを理解する。	○	○	○	○		
			○	○		○	○	
	こども学海外研修	海外の文化等に触れ幼稚園教諭、保育士としての資質の向上を図る。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
卒業研究	卒業論文・卒業制作演習ＩＡ	卒業論文を書くために、自分が興味のある分野に関する先行研究を読み、テーマを導き出していく。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ＩＢ	卒業論文にむけての研究の基礎を習得する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡＡ	受講生各自が、授業テーマについて理解を深めるとともに、卒業論文を作成する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡＢ	受講生各自が、授業テーマについて理解を深めるとともに、卒業論文を作成する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
卒業論文・卒業制作		卒業論文・卒業制作演習で学んだことを卒業論文、卒業制作としてまとめる。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○

心理こども学部　心理学科カリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
①心理的援助の現場において、人の心を癒し、支える力
②一般企業での実務に役立つコミュニケーション力や思考力
③様々な障がいのある児童・生徒を教育する力
④動物に関わる現場で心理学の知識や技術を適切に運用する力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
学科必修科目	心理学概論	知覚・認知心理学と社会心理学の基礎知識を身に付けること。		○	○	○		
				○	○	○		
	臨床心理学概論	心理学（発達分野・臨床分野）の基礎知識を身近な視点から学ぶ。			○	○		
				○	○	○		
	心理学研究法	卒業論文研究を実施するに当って、自身の研究テーマに沿った適切な研究方法を立案できるようになる。		○	○	○		
				○	○	○		
	心理学統計法Ⅰ	各自の卒論研究に際して、適切な統計学的検定を行えるようになる。			○	○		
				○	○	○		
	心理学実験A	人間のものの見方や考え方、行動、人間関係のしくみなどについて調べるための実験・調査方法、得られたデータの統計的分析、分析結果を客観的に考察してレポートにまとめ方法などについて学ぶ。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	心理学実験B	人間のものの見方や考え方、行動、人間関係のしくみなどについて調べるための実験・調査方法、得られたデータの統計的分析、分析結果を客観的に考察してレポートにまとめ方法などについて学ぶ。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	心理学演習ⅠA	卒業論文のテーマに関する文献を読み、研究計画を立てる。また、調べてきたものを発表し、討論する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅠB	卒業論文のテーマに関する文献を読み、研究計画を立てる。また、調べてきたものを発表し、討論する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅡA	卒業論文のための調査、実験を行う。また、卒業論文を作成する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅡB	卒業論文のための調査、実験を行う。また、卒業論文を作成する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
学科選択科目	発達心理学Ⅰ	子どもの心身の発達の様相と学習の過程を理解する力を養う。また、発達の過程で生じる心身の不適応についても理解する。さらに、様々な障がいを抱えた子どもの心身の発達や学習の過程を理解し、指導・援助のための基本的知識を身につける。		○				
			○	○	○	○	○	○
	発達心理学Ⅱ	発達に関する知識を身近な事象と結び付け、人間理解を深める。		○				
			○	○	○	○	○	○
	感情・人格心理学	・対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解する ・人の態度及び行動を理解する ・家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響を理解する			○			
					○	○		
	社会・集団・家族心理学	パーソナリティ心理学の基礎知識を身につけ、人の性格に対する興味を深めるとともに、より深い他者理解や自己理解を促進すること。	○	○	○	○	○	○
				○	○	○	○	○
	神経・生理心理学	私達は脳で見たり、聞きたり、味わったり、においを捉えたりしています。また喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、悩みなどの心の動き（感情）も脳で起こる。脳の基本的構造や働きについて理解を深めつつ、脳の精密さ、生命の神秘に触れ、健康で普通に生活を送ることのできることに感謝や喜びを感じることを目標とする。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○		○
	倫理学	倫理と公民の基礎的知識を身につけるのみならず、社会生活において実践出来ることを目標とする。				○		
			○	○	○			○
	祈りと心	宗教を、社会や国家、文化におよぶ人間の価値判断の根源として尊重すべき事柄として理解し受容する姿勢を養う。そして、人間相互の絆を回復させる手立てとしても機能する点を理解する。				○		
			○			○	○	○

	公民科教育法Ⅰ	中学校社会科や高校地歴科との関連性を踏まえた上で、高校公民科（現代社会、倫理、政治経済）で取り扱う教授内容を適切に理解し、生徒にわかりやすく教材化するための基礎的能力を身につけることを目標とする。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	公民科教育法Ⅱ	高等学校公民科の学習指導案・教材づくり、模擬授業とグループでの検討会を通して、授業実践力を高める。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
公認心理	公認心理師の職責	公認心理師として業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することのできる基礎的態度と適正な指針の獲得を目標とする。	○	○	○		○	
			○	○	○	○	○	
	司法・犯罪心理学	犯罪の諸実態を知り、同時に犯罪者の処遇や犯罪被害者の支援についても考察を深めることを目標とする。		○				
			○	○		○		
	障害者・ 障害児心理学	定型発達の道筋について理解した上で、生物学的要因、環境要因による発達上の障害について正しく理解することを目標とする。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○		○
	福祉心理学	困窮事態の援助について、社会制度の理解と他の専門職との連携無くしては、援助効果も援助成果も望めないことを理解すると共に、「独りよがりの援助者」ではなく専門的援助者になるための資質を獲得することを目標とする。	○	○	○		○	
			○	○	○	○	○	
	心理学的支援法	学生生活を通して相手の話を正しく「聴く」練習や、自分の気持ちを適切に相手に伝える練習をする機会は、殆どない。そこで、この授業では、相手の話を正しく「聴く」ためには、どのようにしたらよいのか、また、自分の気持ちを相手にどのように伝えたらよいのかについて体験的に学ぶことを目的とする。	○	○		○		
			○	○	○	○		
	音楽療法概論	音楽の効用や音楽療法の手法を知り、臨床場面で対応できる基礎知識を身につけることを目標とする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	サイコドラマ入門	自分を表現したり、他者の視点や立場を追体験することで、自己理解や他者理解を深め、コミュニケーション力や共感力を育む。				○		
			○	○		○	○	
	心理的アセスメント	心理検査の基礎を学び、心理学的な視点から客観的に自己分析する方法を身につけることを目標とする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	健康・医療心理学	私たちの健康をとりまくシステムや諸理論を理解し、自らの健康について深く考えることができる。また、実際に自らの健康関連行動の変容維持に到達することができることを目標とする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○		
	教育・学校心理学	スクールカウンセリングの理論と実践についての基礎的な知識と方法論について習得する。|また、現代の学校現場における児童生徒の諸問題および背景に関する基礎的な理解力と実践力を養うことを目標とする。	○	○		○		
			○	○	○	○		○
	関係行政論	法体系と行政 、公認心理師法の理解、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野の専門家と施設 、法律と政策を知ることを目標とする。		○	○	○		
			○	○	○	○		
	精神疾患とその治療	精神疾患・精神障がいについての基礎と支援について理解することを目標とする。	○	○	○			○
			○	○	○			○
	認知・行動療法	認知行動療法の理論を学び日常生活に活かせるようになる。				○		
			○	○	○	○	○	○
	プレイセラピー	遊戯療法を実際に実践できるようになる。		○		○		
			○	○	○	○	○	○
	絵とイメージの心理療法	イメージを扱う心理療法の基礎についての理解を深める。				○		
			○	○	○	○	○	○
	死生心理学	死と生を扱う学問分野において、死に臨む人や死別の悲しみに直面している人へのケアができることを目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	心理演習	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野それぞれの分野における具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や相談支援の演習を行うことにより支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチのためのび支援計画の作成ができること目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	心理実習A	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受け、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を目標とする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	心理実習B	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の6つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受け、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を目標とする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○

キャリア心理	社会学	現代社会を理解するうえで知っておくと大変有用な社会学的なものの考え方の基礎を身に着けることを目指す。				○		
			○	○	○			○
	生活と経済	経済のしくみと課題、経済学の基礎知識を、日常生活と結びつけて理解する。また、授業で学んだことを日常生活の中で活用し、生活者として主体的に経済活動を実践する。				○		
			○	○	○			○
	スポーツ心理学	自分自身のスポーツ競技活動に心理学の知識を役立て、心理学的な側面からスポーツに対する理解を深めることを目標とする。		○	○		○	
				○	○		○	
	笑いの心理学	笑いのメカニズムを理解する。日常生活の中で、笑いを積極的に活用する。笑いを通じて心理学を学ぶ。	○	○	○	○		
			○			○	○	
	コミュニティ心理学	学校というコミュニティで生起する課題をクリアすることで、受講者が社会において何をどのようにすれば社会貢献になるのかを知り、社会貢献できる人材の育成を図ることを目標とする。	○					
				○	○			
	社会調査入門	社会調査の結果を読むための知識を習得し、実際に調査を実施する際のポイントをつかむ。	○					
				○	○			
	社会調査法	量的調査研究の一連の流れを理解するとともに、調査結果などの内容についても理解できるようになる。	○					
				○	○			
	消費者行動の心理	消費者行動の心理の諸分野について総説的な知識を得る。	○					
					○			
	心理学統計法Ⅱ	各自の卒論研究に際して、適切な統計学的検定を行えるようになる。			○	○		
				○	○	○		
	ビジネス学（産業・組織心理学）	組織における個人の行動を理解し、働きがい、ストレス、キャリアなど、職場における心理的な諸問題に対して必要な支援を理解することを目標とする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	味と香りの心理学	味覚や嗅覚の脳内処理機構の概要を説明できる。味や香りが日常の生活場面でどのような働きや作用を持っているのかを理解する。食行動の制御における味や香りの役割について概略を説明できるようになる。			○			
			○					○
	色彩心理学	色が私たちの生活において果たす物理的・生物的・心理的な役割について、基礎的な知識を身に付ける。			○	○		
				○	○	○		
	社会調査実習A	社会調査の基礎を習得するために、学生自身がチームを組んで、作業を進行する。チームを組織し、協力して目標達成に向けて運営していくための、コミュニケーション能力、リーダーシップやマネジメント能力を獲得する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	社会調査実習B	社会的課題の発見と調査方法の手順を習得する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	知覚・認知心理学	知覚心理学・学習心理学・認知心理学における重要事項について理解することを目標とする。		○	○	○		
				○	○	○		
	学習・言語心理学	学習心理学・言語心理学における重要事項について理解することを目標とする。		○	○	○		
				○	○	○		
	ペットビジネス	グルーミング・トレーニング・看護など、ペットビジネスのスキルを総合的に身につけることを目標とする。	○	○	○			
			○	○	○			
	動物社会学	ヒト以外の霊長類とヒトの行動との相違点や類似点を常に考えること、サルを通して人の理解ができることを実感しながら、論理的思考能力、表現力も向上できることを目標とする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	ドッグトレーニング	どうすれば犬が幸せに暮らすことができるか。そのために飼い主様の犬のしつけに対する相談に応えたり、犬が人とともに家族の一員として仲良く生活できるように、指導・訓練ができるようになることを目標とする。		○	○	○		
	アニマルセラピー(ホース)	馬の特性について学ぶ。発達障害のある子どもたちの理解と支援の方法を学ぶ。教育の中で馬の特性を活かす方法を学ぶ。				○		
			○	○		○	○	
	アニマルセラピー(ドッグ)	実践に通じるアニマルセラピーの基礎を学ぶ。				○		
			○		○			○
	動物形態機能学	犬を中心に、動物の解剖と生理学を学ぶことで、動物看護の基礎を身につける。	○			○		
				○	○			○
	動物看護公衆衛生学	人獣共通感染症を中心に学び、人と動物が共生する社会において動物看護士として必要な知識を身につける。	○			○		
				○	○			○
	小動物臨床看護学	動物病院現場での動物看護の理論と実践を学ぶ。また動物の疾病についての知識を身につける。	○			○		
				○	○			○
	アニマルセラピー(ドッグ)実践演習	人と動物の関係の多様性について学ぶ。				○		
			○	○	○			○

特別支援教育	特別支援教育概論	特別支援教育の概要を理解する。また、特別支援教育に関する理念、制度、対象障害種、特別支援教育の現状と課題について理解する。	○			○		
			○	○	○	○		○
	知的障害者の心理・生理・病理	知的障害における心理機能の諸特性の理解と発達支援の視点を理解する。知能・言語・社会生活に関する代表的なアセスメントについての知識を習得する。	○			○		
				○	○	○		
	肢体不自由者の心理・生理・病理	肢体不自由児・者の発達とその障害について、運動、感覚・知覚、言語、社会性、思考の諸側面から理解する。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	病弱者の心理・生理・病理	病弱児・者への臨床像とその心理・生理・病理的基盤を理解する。病弱児・者の教育的ニーズの心理学的基盤とアプローチを理解する。	○			○		
			○	○	○	○	○	
	知的障害者指導法	知的障害に関する理解を基本とし、特別支援学校教育課程の理解、個別の指導計画作成を目標とする。	○			○		
			○	○		○	○	
	肢体不自由者指導法	肢体不自由に関する理解を基本とし、特別支援学校教育課程の理解、個別の指導計画作成を目標とする。	○			○		
			○	○		○		○
	病弱者指導法	病弱児・者の疾病について理解するとともに、その心理特性を把握し、その教育的支援について理解する。	○			○		
			○	○		○	○	
	視覚障害者の心理・生理・病理	視覚に関する解剖生理、眼疾患の概要を理解する。視覚障害者の心理特性を理解し、支援の在り方を考える。	○			○		
			○		○			
	聴覚障害者の心理・生理・病理	聴覚及び音声に関する解剖と生理についての理解を深め、聴覚障害や音声機能障害に関する病態について知る。聴覚に障害のある子どもの心理を多面的に理解し、コミュニケーション手段の実際について知る。	○			○		
			○	○	○	○		○
	重複障害・LD等の心理・生理・病理	自閉症、ADHD等の心理・生理・病理の基本的特徴を理解し、神経学的評価や心理学的アセスメント、治療教育の基礎となる理論とその実践について概要を理解する。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	視覚障害者の理解と指導法	視覚障害教育における教育課程、自立活動を理解する。実践的指導力の基礎をつくる。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	聴覚障害者の理解と指導法	聴覚に障害のある子どもの心理を多面的に理解し、発達段階ごとの教育支援課題、現状と課題等について、具体的な教育方法と発展的な知識について理解する。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	発達障害教育方法論	発達障害に関するアセスメント方法について理解する。特性に配慮した教育方法について理解する。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	特別支援教育指導法演習A	実践の中から、自らが見出した課題について議論し、実践力を身に着ける。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	特別支援教育指導法演習B	実践の中から、自らが見出した課題について議論し、実践力を身に着ける。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	特別支援教育コーディネーター論	特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。特別支援教育の現状と課題、他機関連携とコラボレーションについて理解する。	○			○		
			○	○	○	○	○	○
	特別支援教育実習	教育実習への高い意欲と自覚をもつ。特別支援学校における教科の実践的な指導力を身に付けるとともに、障害のある生徒や学校の実態について深く理解する。教職への適性や課題について自	○			○		
			○	○	○	○	○	○
卒業論文		心理学に関連する研究を行い、学術的な形式の論文としてまとめ、口頭で発表する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○

食文化学部　食文化学科カリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
①しっかりとした調理技術と理論を身につけ、「食育・安全」「食産業」「食文化史」の三系統にわたる体系的な知識を持ち、食文化を総合的に理解できる力
②食と健康に関する豊富な知識と問題意識を有し、文化・自然科学的知識に基づいて、素材の特徴を最大限に生かせる調理・加工ができる力
③「食」の提供現場で必要とされる経営管理能力と高い接遇（ホスピタリティ）能力
④日本の食文化に関する専門的知識を基盤に世界の食文化を理解し、日本の食文化の発展に結びつけ、寄与することができる力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
基本科目	食と生命	①化学の基礎知識について理解し身につける。②人体の構造とその働きについて理解する。③食品に含まれる栄養素の種類とその代謝について理解する。		○				
				○	○			
	食品衛生学Ⅰ	微生物、食中毒を理解し、食中毒を予防できるようになる。		○				
				○	○			○
	食品衛生学Ⅱ	食品を扱う上で、食中毒を予防できるようになる。また、食品添加物の基礎知識を身につけ、その有用性と危険性について考える力をつける。		○				
				○	○			○
	食品衛生学Ⅲ	器具、容器包装の取り扱いや安全性について習得する。また、調理従事者や食品を扱う現場がどのような衛生対策、消毒・殺菌を行うのか、遺伝子組換え食品の種類と安全性、衛生法規についても理解する。		○				
				○	○			○
	食品衛生学実習	食品衛生を身近に感じ、衛生管理の重要性を再確認する。実験操作、レポートの書き方を修得する。		○				
				○	○	○	○	
	栄養学Ⅰ	栄養素の種類と働きを理解する。栄養素の消化・吸収・代謝について理解する。		○				
				○	○			
	栄養学Ⅱ	①栄養素の種類を学び、各栄養素の体内での働きを理解する。②エネルギー代謝に関与する栄養素について理解する。③健康増進のために必要な栄養素が欠乏したときにおこる病態について理解する。		○				
				○	○			
	調理理論Ⅰ	主観的なおいしさについて影響を及ぼす要因について知り、おいしさについての理解を深める。	○					
			○		○			
	調理理論Ⅱ	①調理の基本操作を理解する。②植物性食品の化学・物理的特性を理解し調理による変化を知り、実習に活かす力を養う。	○					
			○		○			
	調理理論Ⅲ	動物性食品・その他の食品の化学・物理的特性を理解し調理による変化を知り、実習に活かす力を養う。	○					
			○		○			
	調理理論Ⅳ	なぜこの調理動作や材料、器具、手順、調味料が必要なのかなどの疑問が生じた時、「なぜ」に応えられる論理的思考を身につける。	○					
			○	○	○		○	
	食品学Ⅰ	①食べ物と食生活を食物連鎖を含め系統的に整理し、理解する。②現在の食品の分類・整理の仕方を学ぶ。③日本食品標準成分表の利用上の注意点を知り、活用することができる力を養う。		○				
				○	○			
	食品学Ⅱ	①食品成分を中心に、化学的構造，特性と健康上の機能について学ぶ。②食品の一次機能、二次機能、三次機能を整理し、理解する。③食品成分間の反応、消化吸収後の代謝と生理機能を理解する。		○				
				○	○			
	食品学Ⅲ	食品学Ⅰ・Ⅱで学んだ食品の特徴や性質を確認するために、食品実験を行う。食品の知識の定着をはかる。		○				
				○	○		○	
	公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生の領域とその目的、実現のための行政の仕組み、調理師としての健康増進等に関する基礎的な知識を習得し、説明できる力をつける。		○				
			○	○	○			
	公衆衛生学Ⅱ	調理師として必要とされる公衆衛生学上の知識について習得する。食育、労働と健康、調理師の職場環境、生活環境、環境条件、環境汚染とその対策について、その意味や意義、施策あるいは対応について的確に説明できる力を身につける。		○				
				○	○			
	調理実習Ⅰ	調理の基礎を身につけ、調理器具を正しく使い、料理についての基本的な技術と知識を身につけるとともに、衛生的に食材を扱うことを知る。	○					
						○	○	

	調理実習Ⅱ	調理実習Ⅰに引き続き、基本的な調理技術を習得して「調理師」としての見識と教養を身につける。また、2年次に向けてスムーズな調理実習が実施できるよう、目的に合わせた器具の正しい扱い方を習得する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	調理実習Ⅲ	西洋料理の概要を理解し、知識、技術を身につける。調理実習Ⅰ，Ⅱで学んだ知識をもとに、より高度な調理テクニックを身につける。その地域の風土、文化から生まれた西洋料理の特徴を知る。	○					
			○	○	○	○	○	○
	調理実習Ⅳ	食事を栄養的観点からとらえ、献立実習を行うことにより、バランスの良い食事形態を考える能力を身につける。また、全ての食事が、時間内に美味しくいただけるように作業の流れや時間配分を考慮できる力を身につける。	○					
			○	○	○	○	○	○
	調理実習Ⅴ	調理実習Ⅲで学んだ西洋料理の知識と技術をもとに、より高度な調理テクニックを身につける。また、日本料理、中国料理の実習も行う。日本料理では、季節感の出し方や料理の演出の仕方を学ぶ。中国料理では、中華の食材、調理法、器具の扱い方などの基本的な料理の技術習得をする。	○					
			○	○	○	○	○	○
	調理実習Ⅵ	調理師として必要なスキルを身につけ、常に安定した料理を提供できる技術力の習得を目標とする。	○					
			○	○	○	○	○	○
	総合調理実習Ⅰ	集団給食を行うことで実社会での給食業務における、協調性、責任感、向上心を養うとともに、衛生観念、安全管理を身につけ、お客様の満足度を理解し、いかに高めるかの研究心と応用力を習得する。	○					
			○	○	○	○	○	○
	総合調理実習Ⅱ	接客態度や言葉使い、身だしなみを整え、よりよいサービスを行う力を身につける。また、バランスの良い食事を提供し、食材の発注、管理を行う力を身につける。	○					
			○	○	○	○	○	○
	食育論	これから学ぶ食の入門編。今まで生きてきた過程で「食」について考えてきたことを更に深めて「食」が人間生活の基本であることを再確認する。食材の栄養と特徴、健康な食習慣、食のマナー、食文化、食から発生する環境問題などの「食」を学び、「食」を大切にする心を養う。		○				
			○	○	○		○	○
	食品アレルギー論	食物アレルギーの仕組み、その原因食品と引き起こされる症状、検査と治療法、低アレルゲン食について理解する。		○				
				○	○	○		
	食文化概論	世界の食文化について学ぶことで、文化共存のあり方に対する個人的な考えを説明できる力を養う。				○		
			○		○			
	日本文化と食	日本の食文化に影響を与えた諸外国の概況との比較検討を通して、日本の食文化の特質を理解する。				○		
			○		○			○
	製菓理論Ⅰ	製菓製パン材料の種類、特徴、性質を理解する。	○					
			○	○	○	○		
	製菓理論Ⅱ	製菓製パン材料の種類、特徴、性質にあった基本製法を知る。	○					
			○	○	○	○		
	製菓理論Ⅲ	製菓理論を理解し、2級洋菓子製造技能検定合格を目指す。	○					
			○	○	○	○		
	製菓実習Ⅰ	基本である生地を作る・塗る・かける・絞る・切るなど、常に衛生的にできるよう学ぶ。	○					
			○	○	○	○	○	
	製菓実習Ⅱ	基本で学んだ生地を作る、塗る、かける、切るなどを常に衛生的で早く、正確にできることを修得する。	○					
			○	○	○	○	○	
	製菓実習Ⅲ	製菓の意義・目的・製菓操作を理論的に学び、科学的裏付けをもちながら製菓実習を行い、菓子の食生活における意義、菓子と社会、菓子の果たす役割について学ぶ。そしてその知識を活かせるようにする。	○					
			○	○	○	○	○	
	製菓技能士実習Ⅰ	製菓の意義・目的・製菓操作を理論的に学び、科学的裏付けをもちながら製菓実習を行い、菓子の食生活における意義、菓子と社会、菓子の果たす役割について学ぶ。そしてその知識を活かせるようにする。	○					
			○	○	○	○	○	
	製菓技能士実習Ⅱ	洋菓子製造技能検定2級試験合格を目指す。	○					
			○	○	○	○	○	
	介護食士演習	高齢者社会の中で経口栄養による「食事」の重要性を理解する。高齢者に食事を提供するために必要な食品、栄養、衛生、また高齢者の身体的特徴、心理的特徴について学び、介護食の実習を行う。ここの高齢者が求めている食事を提供できる知識と能力を身につける。		○				
			○	○	○	○	○	○
	HACCP・食品安全管理学	HACCPを始めとする国内外の食品安全管理システムについて具体例を交えて理解する。また、食品表示検定協会主催食品表示検定（初級）に合格を目指す。		○				
			○	○	○	○	○	○
	HACCPワークショップ	HACCPの知識とHACCPプラン作成能力を身につけ、「HACCP管理者」申請資格を得る。		○				
				○	○			

発展科目	食物学のための化学入門	調理師養成課程で「栄養学」「食品学」を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につける。		○				
				○	○			
	食ビジネス概論	経営学に関する基礎的な理論を体系的に理解し、実際の事例に対し、適切な問題設定と分析、提言ができる。			○			
				○	○	○		
	食マネジメント	経営学に関する基礎的な理論を体系的に理解し、実際の事例に対し、適切な問題設定と分析、提言ができる。			○			
				○	○	○		
	起業概論	ビジネスプランの基本的な構成要素を理解し、理解に基づいて、協働作業によりアイデアをまとめて、その結果を第三者に伝えられる。			○			
				○	○	○		
	食の企画と演出	絵が描けるようになることで、言葉や文字とあわせより正しく具体的に、自己のイメージを伝えることができる力を身につける。			○			
			○	○	○			
	店舗デザイン	設計図の基本知識と製図技術を習得し、設計図から空間の完成イメージを正しくつかみイメージボードを作成。自分の企画した店舗をプレゼンテーションできるようにする。			○			
			○	○	○			
	食空間デザイン	自由な発想で「食」を総合的にイメージできるようになる。			○			
							○	○
	美食の歴史	各時代の美食文化の担い手たちの系譜を理解しながら、未来の美食のあり方について考える。				○		
			○		○			
	食とことば	さまざまな「食」の文字ことばによる表現を理解し、それを自らのことばとして活用できる力を養う。				○		
			○		○	○		○
	食と近現代	革新的であった近現代の食生活の展開過程を追い、受講生それぞれが自分の言葉で、現代の「日本食」の独自性を語れる力を養う。				○		
			○		○			
	フードランゲージ	食文化の理解のみならず、調理・製菓の現場で運用できる外国語の習得を目標とする。				○		
					○	○		○
	食とワイン	ワインの歴史、分類、世界のワインについて学び、ワインと料理の相性について考察する。				○		
			○		○		○	
	大阪の食と文化	大阪の食と文化を知り、生活の中に活かしつつ文化の継承者となる。				○		
			○	○	○	○	○	○
	家計と経済	家族・家計にかかわる生活の課題を主体的に解決し、生活を充実向上させる実践的能力を身につける。家族・家計に関する家庭科の授業内容を理解する。		○				
				○	○			
	住まいと暮らし	住生活と住まいの関わり方について理解し、自らが健全な住意識や的確な住要求をもつ。		○				
			○	○	○			
	家庭電気・機械及び情報処理	家庭生活に関わる技術の基礎を理解し、豊かな生活をするために、それを適切かつ安全に利用したり指導したりできる力を養う。		○				
			○	○	○			
	衣と暮らし	衣服を構成する要素である、素材やその特性、衣服の機能を十分理解して、快適な衣生活を送ることに役立てる。		○				
			○	○				
	保育学	子どもの発達を理解し、状況に応じた適切なかかわりを習得する。		○				
			○	○				
	衣服演習	身体の動きと衣服の関係を学習し、機能的な衣服を考え、適応する被服材料からの制作や、衣服の構成を理解し、簡単な衣服制作で基本的な知識を身につけ、計画的な作業に取り組む事ができる。		○				
			○	○				
資格関係	家庭科教育法Ⅰ	改訂された新学習指導要領の内容を理解する。家庭科の学習内容および必要な基礎的知識を身につける。家庭科の指導計画が立てられるようになることと、アクティブ・ラーニングが実践できる授業の工夫ができようになることをめざす。		○				
			○	○	○	○		
	家庭科教育法Ⅱ	年間指導計画の意味を理解し、計画できるようになる。多様な授業形態を学び、学習内容に応じて、生徒主体の授業を計画する力を養う。実技実習を含む授業の教材研究ができる。		○				
			○	○	○	○		
	家庭科教育法Ⅲ	家庭科の学習の目標が理解できる。|学習の主体が生徒であることを見失わず、生徒一人ひとりが主体となって学習でき、実践的に学べる授業を工夫できる。教育実習の研究授業に向けて、学習指導案が書けるようになる。		○				
			○	○	○	○		
	家庭科教育法Ⅳ	分かりやすい授業、効果的な学習方法の選択、生徒の主体的学びが実現できる授業づくりができるようになる。|生徒とのコミュニケーション、よりよい学習集団作りのついても考えることができるようになる。|生徒および学校の特色を生かし、時代の変化に呼応した教育実践が工夫できる資質		○				
			○	○	○	○		

卒業研究他	食文化演習Ⅰ	各分野に関する知識と理解を深め、研究方法の方法論を学ぶことで来年度に取りかかる卒業研究の基礎を固める。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	食文化演習Ⅱ	各分野に関する知識と理解を深め、研究方法の方法論を学ぶことで来年度に取りかかる卒業研究の基礎を固める。	○	○	○	○		
				○	○	○		
	卒業研究Ⅰ	卒業テーマを設定し調査する。卒業論文または卒業制作の構成を完成させ進める。		○	○	○		
				○	○	○		
	卒業研究Ⅱ	4年間の学びの集大成として、卒業論文または卒業制作を完成させる。		○	○	○		
				○	○	○		

食文化学部　管理栄養学科カリキュラムマップ

Ⅰ学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、学科の定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次に掲げる能力を有した者に、学士の学位を授与する。
① 管理栄養士として必要な知識、技能を修得し、主体的に問題解決のできる能力
② 管理栄養士の立場を自覚し、多職種とコミュニケーションを図りながら連携、協働し、意欲的、創造的に活動できる能力
③ 教養と思いやりのこころをもって人々と接し、食行動と栄養管理について統合的に理解するとともに実践力を身につけ、健康及び医療に対して寄与できる能力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
社会・環境と健康	公衆衛生学Ⅰ	①健康と疾病の連続性の理解 ②.健康寿命の延長 ③個人・集団と自然環境・社会環境の関連性の理解 ④予防医学での科学と技術の構築	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	公衆衛生学Ⅱ	①ライフスタイルと健康観の理解 ②地域社会における健康観及び一次予防の必要性の理解 ③総合医療保健への拡大	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	健康管理論	①個人の健康管理（セルフ・ケアまたはセルフ・コントロール） ②集団における健康管理 3.健康増進に寄与する要因が理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	①細胞の一般的な構造とはたらきを説明できる。 ②各器官の機能について説明できる。 ③各器官における構造とその働きとの関連について説明できる。	○		○			
				○	○			
	解剖生理学Ⅱ	①体のしくみを調整する各器官の構造と働きについて説明できる。 ②人体の発生過程についての概略を説明できる。 ③血液と免疫機構、生体防御についての仕組みを説明できる。	○		○			
				○	○			
	解剖生理学実験	①人体の構造と機能について理解を確実にする。 ②実験データを適切に評価して、判断や結果を示すことができる。 ③実験結果の考察を通じて自ら考えて動く能力を身に付ける。	○		○			
			○	○	○	○	○	
	生化学Ⅰ	①細胞の構造と機能を説明できる。 ②生体成分の構造及び性質を理解できる。 ③代謝に関わる各酵素と酵素反応の特性を説明できる。 ④遺伝情報の保存と発現の仕組みを理解できる。	○		○			
				○	○			
	生化学Ⅱ	①糖質、脂質、たんぱく質、核酸の代謝過程を説明できる。 ②代謝過程の相互連関と代謝調節を説明できる。 ③酵素欠損や中間代謝物異常に起因する疾患を挙げることができる。	○		○			
				○	○			
	生化学実験Ⅰ	①生化学実験の基礎を学ぶ。 ②生体構成成分(糖質、脂質、たんぱく質、酵素)を実際に測定し、その方法と原理を知る。 ③実験を通して生体構成成分の構造と性状を理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	生化学実験Ⅱ	①動物やヒトの生体試料を用いて糖質、脂質の含量や酵素活性を測定でき、それら生体成分と栄養状態・疾患との関係を説明できる。 ②遺伝子解析の方法と原理を理解し、遺伝子情報とたんぱく質の発現・構造・機能との関係を説明で	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	疾病の成り立ちⅠ	①臨床検査の種類と特性を理解する。 ②生活習慣病、栄養疾患、代謝疾患等の疾病の発症や進行、病的評価や診断、治療の基本的考え方に関する知識を理解する。 ③病原微生物の感染、防御機構を理解する。	○		○			
				○	○			
	疾病の成り立ちⅡ	内分泌疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎疾患、神経・精神系疾患、呼吸器系疾患、血液疾患、運動器疾患、免疫・アレルギー疾患等の発症や進行、病的評価や診断、治療の基本的考え方に関する最新の知識を理解する。	○		○			
				○	○			
	微生物学	栄養学的及び衛生学的側面のみならず、感染症という疾病の基礎知識としての微生物学を身に付ける。	○		○			
				○	○			

食べ物と健康	食品学Ⅰ	①食べ物と食生活を食物連鎖を含め系統的に整理し、理解できる。 ②現在の食品の分類・整理が理解できる。 ③日本食品標準成分表等の利用上の注意点を知り、活用できる。	○	○	○			
				○	○			
	食品学Ⅱ	①食品成分(5大栄養素)を中心に、化学的構造、特性と健康上の機能について理解できる。 ②一次機能、二次機能、三次機能を理解できる。 ③食品の成分間の反応と生理機能性が理解できる。	○		○			
				○	○			
	食品学実験Ⅰ	①食品の主な成分の化学的性質が理解できる。 ②日本食品標準成分表の一般成分項目が原理を含めて理解できる。	○		○			
			○	○	○	○	○	
	食品学実験Ⅱ	①微量定量法による分析から、栄養の具体的成分の性質、構造が理解できる。 ②機器分析による、より高度な栄養成分分析手技が理解できる。	○		○			
			○	○	○	○	○	
	食品衛生学	①食を介した様々な健康被害と、それらに対する対策についての知識を習得する。 ②食品衛生法規や衛生管理について理解する。 ③管理栄養士として必要な食の安全を総合的にマネジメントできる能力を身につける。	○	○	○			
				○	○			
	食品衛生学実験	①実験を通して、食品衛生学で学んだ衛生管理手法についての理解を深める。 ②基本的な食品衛生検査の技術を習得する。 ③実験結果を科学的に考察し、レポート作成できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	食品加工学	①加工食品の製造される原理・プロセスがわかる。 ②食品加工・貯蔵の目的・方法を栄養面、安全面、嗜好面から理解できる。 ③加工食品と関連法規について理解できる。	○		○			
				○	○			
	食品加工学実習	①加工食品の製造原理が理解できる。 ②加工食品の正しい保存方法、鑑別方法が理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	食文化論	①国内外の食生活を構成する要因から現代の食生活を形成する文化的背景を理解できる。 ②世界中の様々な食文化について学ぶことで、食生活に対するグル―バルな見方をすることができる。	○		○			
			○	○	○	○	○	○
	調理学	①調理の目的や意義を理解し、調理するために必要な調理操作や調理特性について理解できる。 ②調理過程における食品の科学的変化について理解できる。	○		○			
				○	○			
	調理学実習Ⅰ	①調理器具の的確な使用方法がわかり、基本的調理操作ができる。 ②食品成分表を活用して栄養価計算ができ、栄養バランスが理解できる。 ③様式別料理の基本が理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	調理学実習Ⅱ	①調理学実習Ⅰで学んだ知識、技術をもとに、より高度な調理操作ができる。 ②新規の食材や伝統的食材を調理できる。 ③栄養バランスのよい献立を作成することができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	調理科学実験	①科学的根拠に基づく合理的調理方法がわかる。 ②栄養性、安全性、嗜好性を高める調理方法の要点の違いが、理解できる。 ③いろいろな調理の場で、最も適切な調理方法が選択できる応用力がついている。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
基礎栄養学	基礎栄養学	①栄養の歴史、遺伝的との関連が理解できる。 ②栄養素の消化、吸収が理解できる。 ③五大栄養素の栄養的役割及び疾病との関連性が理解できる。 ④エネルギー代謝の意味が理解できる。	○	○	○			
				○	○			
	基礎栄養学実験	①栄養素の消化が理解できる。 ②栄養素の吸収後の体内代謝について理解できる。 ③基礎代謝量、エネルギー代謝の意味を理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	①栄養ケア・マネジメントの概念・方法を理解している。 ②食事摂取基準策定基礎理論及び活用法を理解している。 ③各ライフステージの生理的特徴とそれに対応し	○		○			
				○	○			
	応用栄養学Ⅱ	①加齢に伴う身体の構造・生理的特徴に対応した、栄養アセスメント、栄養ケアの方法を理解している。 ②健康増進、疾病予防など健康への影響に関するリスク管理ができる。 ③特殊環境下における栄養ケアの方法を理解して	○		○			
				○	○			
	栄養と身体活動	①身体活動時のエネルギー代謝や栄養状態の変化を理解し、栄養アセスメントの基本的考え方を修得する。 ②アスリートのパフォーマンス向上のための栄養アセスメント、栄養ケアの方法を修得する。	○		○			
				○	○			
	応用栄養学実習	①各ライフステージの対象者の栄養状態・検査等の情報から、正確な栄養状態の評価ができる。 ②栄養状態の結果に応じた栄養ケアが立案できる。 ③対象者の栄養改善、疾病予防・改善に寄与する	○	○	○			
			○	○	○	○	○	

栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	①栄養教育の概念について知る。 ②栄養教育に用いる行動科学理論及び行動変容技法、栄養カウンセリングについて理解する。 ③栄養教育マネジメントの基礎知識と手順を理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	栄養教育論Ⅱ	①ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育について理解する。 ②対象に応じて、QOLの向上を目指した食に関する支援を考えることができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	栄養教育論実習	①個人や集団についての栄養アセスメントができる。 ②栄養の問題について改善目標を立て、栄養教育を計画することができる。 ③効果的な手法や媒体を用いて、栄養教育を展	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	栄養教育論演習	①栄養教育に関する知識と技術の理解を深め、課題解決能力や実践力を高める。 ②行動科学理論や行動変容技法、カウンセリング技法の活用について理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
臨床栄養学	臨床栄養学総論	①臨床現場となる医療・福祉等の各分野における、栄養学の意義や目的、理念、位置付け等が理解できる。 ②臨床現場において実践される栄養ケア・マネジメントシステムを活用していく医療者としての在り方や倫理について理解できる。	○		○			
			○	○	○			
	臨床栄養学各論Ⅰ	①臨床現場における栄養ケア・マネジメントや栄養指導の実践について、様々な疾患に応じたアプローチの方法を理解できる。 ②生活習慣病について、病態や栄養生理代謝と食生活の関係を理解し一次予防の提案ができる。	○		○			
			○	○	○			
	臨床栄養学各論Ⅱ	①各疾患の発生機序・病態生理・臨床症状について復習しながら、複雑に絡み合った疾患に対して適切な食事・栄養療法ができる。 ②栄養ケア・マネジメントにより疾病の治療や合併症、再発を防止の為の二次予防、三次予防の提案ができる。	○	○	○			
			○	○	○			
	臨床栄養マネジメント論	①患者の栄養状態の原因や兆候を明確にしながら栄養状態を判定できる。（栄養評価・栄養診断） ②国際標準化された用語を用いて栄養ケアプランの作成ができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	臨床栄養学実習Ⅰ	①疾患に対し適切な栄養ケア・マネジメントや栄養指導を行うために、具体的な症例についてSGA、ODAにもとづく実践的な栄養アセスメントができる。 ②同様に具体的な症例について、栄養ケアプラン作成と評価ができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨床栄養学実習Ⅱ	①病態別に応じた栄養・食事管理のための食事療法が計画できる。 ②摂食嚥下のレベルに応じた食形態や摂取方法の立案ができる。 ③①、②に応じた特別治療食が調理できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	①わが国の健康・栄養問題 ②公衆栄養活動における栄養疫学の活用方法 ③食事摂取基準の地域集団への活用 ④国民健康・栄養調査の概要や最近の結果、年次推移等について理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	公衆栄養学Ⅱ	①公衆栄養関連法規とわが国の栄養政策との関連 ②健康づくり施策と公衆栄養活動の役割 ③行政における管理栄養士の業務 ④公衆栄養マネジメントプログラムの目的や方法、展開等について理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	公衆栄養学実習	①公衆栄養活動の実践に必要な公衆栄養プログラムが作成できる。 ②管理栄養士として、地域・職域における総合的な公衆栄養マネジメントについて理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	①特定給食の対象と特徴を理解し、栄養･食事管理のための計画･生産･サービスを行う知識と技術を学ぶ。 ②栄養･食事管理及びサービスを運営するためのシステムの構築とマネジメントを行うための知識を修得する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	給食経営管理論Ⅱ	①栄養管理、給食管理、安全・衛生管理についての知識やマネジメントについて説明できる。 ②特定給食施設毎の栄養管理、給食管理が説明できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	給食経営管理実習Ⅰ	①特定給食施設の栄養・食事管理における立案・計画・評価ができる。 ②安全で衛生的な食事サービスが説明できる。 ③食材の流通と生産工程が説明できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	給食経営管理実習Ⅱ	①特定給食施設の特性と対象に合わせた献立作成できる。 ②特定給食施設の特性を把握し、業務日誌の作成、給与栄養量や残食調査等の報告書が作成できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	

総合演習	総合演習Ⅰ	①目的意識を持って、意欲的に実習に臨む。 ②管理栄養士業務の現場を知り、現場での判断や課題解決を行う能力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	総合演習Ⅱ	専門分野を横断して管理栄養士に必要な知識や技術を理解し、栄養評価や管理が行える総合的な能力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	①栄養部門の役割と組織を把握する。 ②給食経営を行うために必要な食事計画・栄養管理がどのようにされているか理解する。 ③調理を含めた配食サービス提供を把握する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅱ（給食経営管理）	①実習施設における栄養部門の役割と組織を理解し、人事労務管理を把握する。 ②給食経営を行うための食事計画や配食サービス提供がどのようになされているのか理解する。 ③給食経営を行うための財務管理の実際を学習する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	①保健所および市町村保健センターにおける公衆栄養活動について理解できる。 ②公衆栄養活動が、公衆栄養マネジメントサイクルにより実施されていることが理解できる。 ③行政管理栄養士の業務とその役割が理解できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	①医療機関における栄養部門の役割や組織を知る。 ②管理栄養士に求められる知識、技能、考察力、判断力等の栄養ケアマネジメントに関する専門的能力を養う。 ③チーム医療の必要性、他職種との連携、患者とのコミュニケーション、接遇態度等総合能力を養	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
専門関連科目	食品栄養関連法規	①様々な食品関連法規の意義や用語を理解する。 ②過去の食品事件の事例を、関連法規の知識を利用して説明できる。 ③管理栄養士・栄養士の業務に必要な法規を関連付けられる。	○	○	○			
			○	○	○			○
	調理学実習Ⅲ（調理学発展実習）	調理学実習ⅠおよびⅡで学んだ基礎的調理技術をもとに、病院、社会福祉施設、集団給食施設で栄養バランスと美味しさ、また文化や風土を見据えた応用的な調理技術や調理のコツを習得している。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	食品アレルギー論	食物アレルギーの仕組み、その原因食品と引き起こされる症状、過去の事故事例と対策、検査と治療法、食品表示、低アレルゲン食などについて理解する。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	日本食と世界	受講生は、講義の最終回に、世界にアピールできる日本食の魅力について、自分の言葉で説明することができる。		○	○			
			○					○
	日本文化と食	日本の食文化に影響を与えた諸外国の概況との比較検討を通して、日本の食文化の特質を理解している。	○		○			
			○	○	○	○	○	○
	フードランゲージ	食文化・食行動についての知識や技術を外国語を通じて理解しながら、調理・製菓および栄養管理の現場で使われる外国語の基礎を習得している。	○	○	○			
					○	○		○
	卒業研究Ⅰ	食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、また学科の定めたカリキュラムを履修したことの集大成として、学習理解に基づく研究を行う。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	卒業研究Ⅱ	食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、また学科の定めたカリキュラムを履修したことの集大成として、学習理解に基づく研究を行う。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	
	学校栄養教育概論	①栄養教諭の成り立ちや制度など、基本的事項について理解できる。 ②栄養教諭に何が求められているかを考え、実践する力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	学校栄養指導論	①学校教育活動における食に関する指導について理解する。 ②食に関する指導の実践力を身に付ける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○

看護保健学部　看護学科カリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
①いのちの尊厳と人間尊重を考え、高い倫理観に支えられた豊かで誠実な人間性
②社会・環境との関わりの中で生活している人を理解するための学際的な教養力
③その人らしく生きることを支援するための基礎的な看護専門知識・技術と実践力
④保健・医療・福祉に関わる多様な専門職者と連携・協働できる能力
⑤国際的な視野をもち、国際交流や国際協力に貢献できる基礎的な力
⑥看護学の発展に貢献しうる創造的・科学的探究心と生涯にわたる自己研鑽のための基礎的な力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
	生涯発達心理学	発達段階に照らし合わせて、精神的発達の問題が理解でき、その支援方法について考えることができるようになることである。		○	○			
				○	○			
	健康教育論	人々の発達段階や健康課題の特性を理解し、対象に応じた健康教育の方法を理解する。対象集団への保健指導技術として演習を通して、効果的な指導方法を考えることができる。		○	○			
				○	○	○	○	
	セクシュアリティ論	①セクシュアリティの概念を述べることができる。 ②わが国のセクシュアリティに関する現状と課題を述べることができる。 ③看護職者としてセクシュアリティに配慮する態度について自己の考えを述べることができる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	精神保健学	精神看護の基本となる広い領域に関係しているので、常識的事柄を含め幅広く心の健康について理解する。狭義の科学よりも人間学の一部門として、また社会学の一部門としての興味をもって積極的に教科書以外の人文的知識も身につける。	○	○	○			
			○	○	○			
	協同学習力の探求	「女性と髪」を題材に、「ジグソー学習法など様々な協同学習の技法」を用いた学びを体験し、「互恵的関係の中で責任を持ち協同して学ぶ力」、「情報活用力」、「主体的学習スキルの向上」、「看護職志向を高める」ことを目指す。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
	臨床対人関係論	これまでの分野実習の経験を振り返り、ナースと患者との「人間相互の形成作用」の展開について考え、看護が大切にしている人間性とはなにかを考える能力を修得する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	衛生学	健康障害の防止や健康の保持増進のために必要な方策について学習し、疾病予防や健康の維持・増進にとって必要な知識とその科学的証拠について理解する。		○	○			
			○	○	○	○		○
	公衆衛生学	公衆衛生学の意義を理解し、保健統計資料を活用できるようになり、地域における医療・保健・福祉の取り組みが分かるようになることである。		○	○		○	
			○	○	○	○	○	○
	保健統計学	記述統計から、推測統計、仮説検定について理解し、医療保健分野において、統計手法を活用できるようになることである。		○	○			○
			○	○	○	○	○	○
	生化学	生体成分の基本的な構造と機能を知り、遺伝情報の発現の仕組みや、多細胞生物に不可欠な情報伝達の仕組みを学習することにより、巧妙・精緻な生命現象を分子レベルで把握できるとともに、疾患およびその治療についての理解を深めることができる。		○	○			
			○	○	○	○		
	栄養学	食品に含まれる栄養素の体内での働きと役割を理解する。各ライフステージにおける望ましい食生活を身につける。		○	○			
			○	○	○	○		○

人間理解の科学的基盤科目	薬理学	①薬と薬物標的分子との反応様式について分子・細胞・個体レベルの観点から説明できる。②主な疾患の病態発現機序を理解し、治療薬の薬理作用機序、副作用を説明できる。③医薬品の安全な使用を説明できる。④看護師の役割を具体的に述べることができる。		○	○			
			○	○	○	○		○
	免疫・微生物学	①病原体の進化についての理解と遺伝子の仕組みについて説明できる。②自然免疫と獲得免疫について説明できる。③感染症を感染経路別に説明できる。		○	○			
			○	○	○	○		○
	形態機能論Ⅰ	人体の素材としての細胞や組織の構造と機能、さらに、骨格・筋肉系、皮膚・生体防御系、消化器系について学習し、人体がどのような構造と生理機能を持っているかを理解する。		○	○			
			○	○	○	○		
	形態機能論Ⅱ	循環器系・呼吸器系・血液系・腎・泌尿器系について学習し、血液を中心として、血液の組成や機能、その循環や維持に必要な人体としてのシステムについて、看護師業務をイメージしながら理解する。		○	○			
			○	○	○	○		
	形態機能論Ⅲ	主として内分泌系、神経系、生殖・発生について学習し、人体がどのような構造と生理機能をもっているかを理解する。		○	○			
			○	○	○	○		
	臨床病理・病態学Ⅰ	主要な疾患についての知識　看護の現場において必要となる理由を考察てきることを目標とする		○	○			
			○	○	○	○		
	臨床病理・病態学Ⅱ	国家試験に合格できる知識を習得できる。		○	○			
			○	○	○	○		
	臨床病理・病態学Ⅲ	成長発達、代表的疾患の理解と看護、日常生活での健康支援、小児医療における倫理的考察、患児家族との信頼関係の構築について理解できる。		○	○			
			○	○	○	○		
	生命倫理学	医療における生命倫理とは何かを理解し、患者の人権を重んじ、患者にとって最善の看護とは何かを理解する一助とする。	○	○	○	○		
			○			○	○	
	キリスト教の看護と倫理Ⅰ	看護師が体験する倫理的問題について理解する。患者中心の看護について述べる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	キリスト教の看護と倫理Ⅱ	倫理的問題に対する解決を導く方法について事例検討を通して理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	文化人類学	文化人類学の「ものの見方」を、自分たちの日常的な感覚に結び付ける形で理解できるようになるとともに、文化人類学と医療とのつながりについて理解することを目指す。		○	○			
			○	○	○	○	○	○
	社会福祉論	社会福祉・社会保障についての仕組みの理解と、生活に根ざしたケアのあり方について理解する		○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	老いと社会	民俗学、社会学、文学などの見地から「老い」について考察し、現代を生きる高齢者の様相について理解を深める。講義の最終には、グループディスカッションを通して「老い」に対する自身の考えをまとめ、発表することができる。	○	○	○	○		○
			○		○	○		
	保健医療福祉行政論	保健福祉行財政の仕組みや政策の変遷について理解する。公衆衛生や社会福祉行政サービスのあり方を学ぶ。行政制度の特色を踏まえ、地域保健法に基づく今後の動向と活動を展望する。保健医療福祉施策の基礎的な知識及び技術を学ぶ。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	○

	看護学概論	看護実践の基盤を支える看護の概念と役割を理解し、それらを各看護専門科目の理論と看護実践に活かしていくことができる。学習仲間とのディスカッションを通し、看護に対する考え方を深め看護者に必要な資質を理解し身につけていくことができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	基礎看護援助論Ⅰ	看護の援助技術に必要な、コミュニケーション、病床環境の整備、情報収集・観察・記録・報告、バイタルサインの測定などの基本となる看護技術を、科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	基礎看護援助論Ⅱ	対象者の日常生活援助に必要な、教育・指導技術、移乗・移送・移動の援助技術、身体各部の清潔援助などの看護技術を科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	基礎看護援助論Ⅲ	食事と排泄の援助技術、フィジカルアセスメント、看護過程の展開について、科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	基礎看護援助論Ⅳ	診療時の援助技術に必要な、検査時の援助、感染防止、導尿、与薬の援助、吸入・吸引、採血、包帯法などの看護技術を科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	基礎看護学実習Ⅰ	①看護学生としての自覚を持ち望ましい態度で実習に取り組める。②看護者のケアの実際を知り看護者の役割について考える。③看護活動の場の1つである病院の機能・構造と役割を知る。④健康障がいを持ち入院している対象者の療養環境と入院生活を知る。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
	基礎看護学実習Ⅱ	①対象者と望ましい人間関係を形成できる。②対象者の健康障がいの病態、心理・社会的側面、生活面をアセスメントし、看護上の問題解決への具体的な看護援助を考えられる。③安全・安楽、個別性、自立、科学的根拠、看護倫理にもとづいた看護援助を実践、評価・考察できる。 ④看護者として必要な態度を養うことができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその意義を理解する。そして成人各期にある人（家族を含む）の身体的・社会心理的・生活の特徴から健康問題見据える。それらを基盤に、さまざまな健康レベル（急性期、慢性期、回復期、終末期）にある対象の特徴を理論や概念を踏まえた看護の考え方を習得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	急性期看護論	急性期・周手術期における生体侵襲の理解を深める。①生体反応のメカニズムを理解し②急激な生体機能変化によって生じる対象者（家族を含む）の生活変化と看護課題を多角的に捉え、③具体的な課題解決策を論理的に考案する力を獲得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○			
	慢性期看護論	慢性疾患をもつ患者の身体的特徴を把握し、その身体的特徴から心理・社会的影響を理解する。慢性疾患をもつ患者が自らの生活を管理しコントロールする理論や概念の活用について理解を進める。その上で、慢性疾患をもつ患者や家族への支援の一般を探求する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○			
	急性期看護援助論	IBLによる事例展開を通して,『対象者の課題（問題）発見⇒課題解決への目標設定⇒課題解決への計画作成』で展開する看護過程における推論ー論証能力（問題発見解決思考力）の獲得・強化を図る。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	慢性期看護援助論	慢性疾患をもつ事例をもとに必要な情報の抽出、アセスメント、問題の特定、目標の設定、看護計画を立案し、問題解決思考を理解する。また事例にもとづき看護援助に必要な理論や概念の活用の実際を理解できる。そしてセルフマネジメントに必要な教育方法を行い、評価のプロセスを理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	成人看護学実習Ⅰ	生命の危機的状況にある患者の全体像を帰納的演繹的な論証を用いて多角的にとらえ、患者および家族の健康課題を明確にし，健康課題に対して根拠を持った具体的な解決計画で展開ができる力を獲得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	成人看護学実習Ⅱ	成人期の発達段階をふまえ、患者の健康上の問題を科学的根拠に基づき理解し、慢性期・終末期にある患者に必要な看護実践の基礎的能力を修得する。また学習者・将来の看護専門職者として、ふさわしい態度や倫理観および自己の看護観を育成する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	老年看護学概論	老年期を生きる意味と価値について多角的にとらえ、加齢が身体と精神、社会的側面に及ぼす影響について理解することができる。また、高齢者をめぐる社会的諸問題を概観し、現代社会における老年看護の役割を考察できる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	老年看護援助論	健康障害を持つ高齢者に対する看護上の課題の明確化と看護計画を立案する能力を養い、身体機能障害などによって生活能力の低下した高齢者に対する基本的な日常生活援助技術を習得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	

看護実践科目	老年看護学実習Ⅰ	介護老人施設利用者との信頼関係及び自律性を尊重した援助的人間関係が構築でき、医療・保健・福祉の連携・協働における看護専門職の役割と責務について理解できる。また、知識と経験を関連づけながらリフレクションすることができ、継続的学習能力を修得する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	老年看護学実習Ⅱ	病院で療養している高齢者とその家族との信頼関係と、高齢者の自律性を尊重した援助的人間関係を構築する。さらに、看護計画に則った高齢者の生活機能の維持や安寧、QOLを重視した看護実践を学習する。また、高齢者の看護に必要な倫理観について理解し、実践できる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	母性看護学概論	①母性看護の概念・リプロダクティブヘルス/ライツの視点を理解できる。 ②女性身体の形態・機能の特徴を説明できる。 ③わが国の母性看護の変遷と現状を理解できる。 ④母性看護における法的倫理的課題と責任について理解できる。 ⑤女性のライフサイクル各期における健康課題と看護について理解できる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	母性看護援助論	①周産期にある対象とその家族に必要な支援を行うための基礎的知識と技術を修得する。 ②事例を用いてアセスメント能力を養い、看護上の課題をウェルネスの視点で解決するための思考を学ぶ。 ③ハイリスクな状態にある周産期の対象への看護について理解する。 ④母性看護の対象における倫理的配慮について理解する。 ⑤自らの母性について関心を深める。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	母性看護学実習	①女性のライフサイクルにおける特徴、および対象（特にマタニティサイクルにある母と児とその家族）の身体的、心理的、社会的な変化を理解し、健康課題・問題を明確にして、対象に必要な看護について考察できる。 ②対象が活用できる社会資源および、対象を取り巻く保健医療チームにおける看護職者の役割について考察できる。 ③対象の尊厳、人権、プライバシーに配慮した態度をとることができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	小児看護学概論	小児看護の対象とその特徴を理解し、小児看護の変遷や現代社会の情勢、家族機能の変化を把握し、小児看護上の倫理観や小児看護が果たすべき役割と課題、子どもの安全について理解することができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	小児看護援助論	小児特有の疾患の病態や治療を理解し、健康障害を持つ子どもとその家族に必要な看護援助が実践できる基礎的能力を身につける。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護援助論で習得した看護理論、知識、技術を踏まえ、小児の各発達段階の特徴を理解し、子どもとその家族に応じた日常生活の援助方法を学ぶ。また、健康上の問題が小児とその家族に及ぼす影響を理解し、個別性に応じた看護実践の基礎的能力を養う。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	精神看護学概論	精神の健康に影響を受けながら生きている対象者の状態を把握するための基本的事項を理解する。また対象者との援助関係における理解を深めながら、援助関係を築くためのプロセスを学習し、援助活動を展開するための基本能力を修得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○		
	精神看護援助論	①.対象者―看護者の援助的人間関係を学ぶ。|②.精神的な問題を抱える対象者を援助するための基本的要素を理解し,対象者の個別性に応じた援助が実施できる。|③精神的な問題を抱える対象者への基本的な看護援助技術を習得する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○		
	精神看護学実習	①心の障害を持ちながら生活する対象者を総合的に理解し、アセスメントする。②対象者の価値観や意思決定を尊重し、長期的な見通しを持つケアを展開する。③対象者と援助的人間関係を築くと共に、援助者としての自己の課題を明確にする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	在宅看護学概論	日本の在宅看護の変遷とその社会背景を理解し説明できる。また、施設内看護と在宅看護の違いを理解したうえで、在宅看護の特徴である「療養者の生活の場」で看護を提供するために必要な知識と在宅ケアチームの一員として看護職の役割を理解することができる。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○

	在宅看護方法論	在宅看護に必要な基本的な訪問マナーや倫理観の必要性について理解できる。療養者の生活の場での看護過程の展開方法と療養者や家族への支援の必要性について理解し、その人らしさを支える援助の方法について理解できる。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
	在宅看護学実習	訪問看護ステーションの機能と役割を理解できる。そのためには、地域の特性や療養者や家族の望む生活に就て、知り理解したうえで、効果的な看護の提供について考えることができる。また、看護だけではなく保健・医療・福祉活動の実際についても理解できる。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
	公衆衛生看護学Ⅰ	地域で生活する人々の健康増進と疾病予防を目指す公衆衛生看護の目的・理念を理解する。公衆衛生看護活動の対象である個人・家族・集団・地域について学習し、公衆衛生看護活動の場の特性を理解し、保健医療福祉の関係機関や住民との協働により対象者の主体性に働きかける公衆衛生看護の役割・機能を理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	地区踏査を行うことで地域に住む住民の健康に自然、社会・文化、生活環境が密接に結びついていることを理解するとともに、公衆衛生看護活動の基本となる地区視診する能力を身につける。また、地区踏査においては、グループで計画、実施し、地区踏査結果を発表することで、チームで協働学習ができる。	○	○	○	○	○	○
				○	○	○	○	
	看護研究方法論	看護研究を行うにあたっての、意義や倫理を理解し、データ収集・分析・解釈し、結果を研究レポートにまとめることができるようになることである。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	看護研究演習	学生の関心のある看護課題について文献検索を行い、文献レビューを行う。また、研究計画書を論理的に作成することを試みる。この学習過程を通して、看護研究に必要とされる基礎的な能力を身につける。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	総合実習	①自己課題を明確にし、実習に取り組める ②複数の対象や事象に対し、優先順位・時間管理・安全を考慮した看護を実践し、評価ができる。 ③医療安全対策と危機管理体制の実際を知る。 ④保健医療福祉チームの一員としての看護の役割を学ぶことができる。 ⑤専門職としての倫理について考えることができる。 ⑥総合実習をとおして、今後の自己課題を明確にする。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	国際看護学Ⅰ	①世界の主な健康課題について説明できる。 ②途上国における健康の社会的決定要因について説明できる③国際保健・看護における主要概念について説明できる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	国際看護学Ⅱ	①選定した国／地域の健康課題を説明できる。②選定した国／地域の健康の社会的決定要因を説明できる。③選定した国／地域の健康課題に対し、国際看護活動の計画立案プロセスを説明できる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	災害看護学Ⅰ	災害の各段階の特徴を概観し、災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズ、看護職の役割、国内外の災害看護活動について学ぶ。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	災害看護学Ⅱ	災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズ、看護職の役割、国内外の災害看護活動について具体的に学び、イメージできるようになる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	感染看護論	①感染の成立の機序を理解し、段階ごとの感染防止対策が説明できる。②標準予防策、経路別予防策の概念が説明できる。③感染症は発生時の対応策を説明できる。④流行性疾患の潜伏期間、感染防止対策が理解できる。⑤医療従事者の職業感染防止対策の説明ができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	家族看護学	家族看護とは何かについて説明できる。家族のとらえ方について学習し、家族アセスメントを理解する健康上の課題が患者と家族に及ぼす影響を理解し、援助を考えることができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	看護管理・ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論	①管理、看護管理、リスクマネジメントの概念が理解できる。②ナイチンゲールの「小管理」を理解し、看護実践のマネジメントをシステムとしてとらえることができる。③人的・物的資源管理の概要が理解できる。④患者、職員、組織を守る医療安全が理解できる。⑤自分のキャリアは自分で磨くことが理解できる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	助産論	①助産の概念、助産の歴史、助産師の専門職性と役割、日本および世界の助産師の活動状況、助産師の法的責任と倫理について理解する。 ②各種助産師養成課程およびカリキュラムの特徴を理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○

養護に関する科目	学校保健	学校保健の構造、役割について学ぶことによって、養護教諭の専門性を捉えながら、学校内・外の関係機関との連携、協働して現代の健康課題を解決していくことを理解することができる。	○	○	○	○		
			○	○	○			
	養護概論	養護教諭の専門性のある職務内容を学ぶことによって、学校教育の学校保健の中核的役割を担うことができるよう実践できる力を身につける。また子どもの成長に向けて、問題意識をもって取り組むことができる力をつける。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	健康相談の理論及び方法	多様な健康課題を抱える子どもへの養護教諭が行う健康相談として、子どものSOSのサインを逃さず問題解決するために背景を理解し、実践できるよう習得する。またコミュニケーション力を高め、他職種と連携できるコーディネーター力を養う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
保健師課程に関する科目	産業保健学	・産業保健の目指すものを理解し、その重要性を認識する。|・産業保健の動向と現状を理解し、健康課題を認識する。|・産業保健の推進体制と推進活動に係わる基礎知識を習得する。|・産業保健における看護職の役割と職務を理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	公衆衛生看護学Ⅱ	対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指す公衆衛生看護の理念、行政機関における公衆衛生看護活動の特質を理解する。公衆衛生看護の歴史的背景、人々の健康を取り巻く環境の変化に応じた公衆衛生看護活動の展開方法、健康危機管理やリスクマネジメント、公衆衛生看護管理について理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	人々の発達段階や健康課題の特性を理解し、対象に応じた公衆衛生看護活動の展開方法を理解する。個人・家族への保健指導技術として家庭訪問演習を行い、家庭訪問の特性を理解し、効果的な指導方法を考えることができる。対象集団全体の健康課題の診断、活動計画の立案、実施、評価の方法である地域診断の方法を理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	
	公衆衛生看護学実習	地区踏査により地域の生活実態から健康課題を考え、健康課題と各種保健活動とのつながりを理解し、健康課題の解決方法を考えることができる。家庭訪問や健康教育を実施し、個人・家族・集団への支援方法を理解する。また、実習全体を通して行政機関における公衆衛生看護活動である地区活動の展開方法について理解する。	○	○	○	○		○
			○	○	○	○	○	○
	産業保健学実習	＊公衆衛生看護学実習・産業保健学実習として単位認定となる 事業所で働く従業員の生活実態を把握し、健康課題を考えることができる。健康課題と各種保健活動とのつながりを理解し、健康課題解決方法を考えることができる。健康課題の解決方法として、個人・家族・集団（職場）への支援活動を理解し、産業保健活動のあり方と産業看護職の役割を考えることができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	

看護保健学部　口腔保健学科カリキュラムマップ

Ⅰ　学科の到達目標（DP：ディプロマポリシー）
① キリスト教の愛の精神に基づき、生命の尊厳と人間尊重を考え、豊かで誠実な人間性を備えている。
② 口腔保健学の専門的知識と実践能力を身につけ、主体的に問題を分析、解決する能力を持ち、口腔保健を通じて全身の健康支援が行える能力
③ コミュニケーション能力を備え、医療・保健・福祉等の関連職種と連携し協働関係を構築できる社会性と協調性
④ ヘルスプロモーションの理念を理解し、個人のみならず、地域医療に貢献でき、リーダーシップやヘルスマネージメント能力
⑤ グローバル社会に対応できる行動力と、それを支える創造力・科学的探究心の基礎力

Ⅱ　梅花女子大学で身につける6つの力	6つの力の具体的内容の一例
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力

科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号 上段：到達目標（DP） 下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
	生物学・化学	①細胞の構造と機能を説明できる。②生命体を構成する物質を列挙し説明できる。③遺伝子の構造と機能を説明できる。④細胞内の代謝と細胞呼吸を説明できる。⑤細胞の増殖と分化を説明できる。⑥生殖と発生を説明できる。⑦成長と老化を説明できる。⑧個体の維持について例をあげて説明できる。⑨遺伝のしくみを説明できる。	○				○	
				○	○			
	解剖学・組織発生学	①人体構造の生物学的意義を理解する。②人体を構成する細胞と組織の形態に関する知識を身につける。③各器官と器官系についての構造を概説できる。④組織・発生についての概要を理解する。		○			○	
			○	○	○			
	生理学	①人体の生命維持のための営みについて植物機能と動物機能に分けて理解する。②人体を構成する細胞の働きを説明できる。③細胞の集まりである各組織の働きを説明できる④各器官と器官系についてのそれぞれの働きを説明できる。		○			○	
			○	○	○			
	栄養と代謝	①生体の構成成分を説明できる。②三大栄養素の代謝を説明できる。③硬組織の構成成分とその代謝を説明できる。④唾液とプラークの構成成分とその代謝を説明できる。		○		○	○	
				○	○			
	口腔解剖学・口腔組織発生学	①頭頸部の基本的な構造を概説できる。②鰓弓についての概念を理解する。③歯の発生をステージを追って理解する。④歯の硬組織（象牙質・エナメル質・セメント質）の組織学的特徴を説明できる。⑤歯と歯周組織の構造を説明できる。⑥歯の形を立体的に理解し、図に書いて再現できる。⑦一本の歯を見たときに、それがどの部位の歯であるか説明できる		○		○		
			○	○	○			
	口腔生理学	①歯と口腔の感覚について概説できる。②下顎の運動について概説できる。③唾液の分泌機構と機能について概説できる。④摂食と嚥下の機序を概説できる。⑤言語音の産生機序を概説できる。		○			○	
				○	○			
	口腔構造機能演習	①歯の形態について図示、説明できる。②口腔組織の微細構造、細胞構築について説明できる。③皮膚感覚点の分布密度について説明できる。④基本味の味覚閾値について説明できる。⑥刺激による唾液分泌量の変化を説明できる。⑦疾患における細胞、組織の変化を正常な組織と比較しながら説明できる。		○			○	
				○	○	○		
	病理学・口腔病理学	①病気の原因と種類を理解する。②病気の成り立ちを理解する。③う蝕の成り立ちと特徴を理解する。④歯周病の成り立ちと特徴を理解する。⑤口腔粘膜、顎骨、唾液腺などの口腔の病気の成り立ちと特徴を理解する。		○			○	
				○	○			
	免疫・微生物学	微生物を通して遺伝、生と死などの生命現象、微生物と環境との関係、ウイルスから細菌、真菌を中心とする病原体がヒトに起こす感染症の種類と症状、治療の概要を理解する。また宿主―寄生体相互作用としての免疫学とアレルギー学の基本を理解し、感染防御と保健衛生管理が説明できる。		○			○	
				○	○			
	薬理学・歯科薬理学	薬剤の有用な作用だけでなく、副作用も認識したうえで、各々の症例に対して適切な薬物療法がおこなわれる必要がある。また、薬物投与中の患者を診療する際にも、その薬理作用を理解している必要がある。本講義では、これらの要求に応えられるな基礎的知識を習得する。		○			○	
				○	○			

専門基礎分野	口腔衛生学Ⅰ	①歯・口腔の健康と全身の健康との関わりが説明できる。② 歯・口腔の正常な形態や組織構造とその働きを説明できる。③う蝕の病因と予防法を説明できる。④ 歯周疾患の病因と予防法を説明できる。⑤歯科疾患の統計や指標を説明できる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	衛生学	①健康と予防医学の概念を理解する。② わが国の人口・保健統計の意義や指標の動向が説明できる。③ 環境と健康との関わりが理解できる。④ 感染症と生活習慣病の予防対策が説明できる。⑤ 疫学の役割と疫学分析に必要な統計学の知識を習得する。	○	○		○	○	
			○		○		○	○
	公衆衛生学	① 地域保健と公衆衛生の概念を理解する。② 地域保健行政の関連法規と組織について説明できる。③ 地域保健活動の基本的な進め方を説明できる。④ ライフステージごとの地域保健活動を説明できる。⑤ ライフステージごとの地域歯科保健活動を説明できる。	○	○	○	○		
			○	○		○	○	
	口腔衛生学Ⅱ	①個人や集団の口腔保健情報の扱いについて理解する②口腔衛生に関わりの深い国家統計を説明できる。③保健・医療であつかう個人情報の保護と倫理を説明できる。④口腔衛生学Ⅰで学んだ歯科疾患の指標を利用できる。⑤口腔衛生に関するデータの収集・集計および統計学的解析ができる。		○			○	
				○	○			
	社会福祉論	社会福祉の理念や法体系、制度、サービス体系について理解するとともに口腔保健と社会福祉との関連について理解を深める。			○			
				○	○			
	精神保健学	①精神保健学の全般的な知識の習得 ②自らのワーク・ライフ・バランスに注意を向け、メンタルヘルスの調和を図り、できることを実践する。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	
	学校保健	学校保健の構造、役割について学ぶことによって、養護教諭の専門性を捉えながら、学校内・外の関係機関との連携、協働して現代の健康課題を解決していくことを理解することができる。	○	○		○		
			○	○	○			
	産業保健学	①産業保健の目的、動向、健康課題を理解する。 ②産業保健の推進体制と活動に関る基礎知識を習得する。 ③産業保健スタッフの役割と職務を理解する。			○	○		
			○	○	○	○	○	
	健康教育論	①健康教育の目指すものを理解し、その重要性を認識する。②健康教育を支えてきた理論とモデルを理解する。③健康教育の展開方法について考えることができる。④効果的な健康教育のあり方について考えることができる。			○	○		
			○	○	○	○	○	
	健康相談の理論及び方法	多様な健康課題を抱える子どもへの養護教諭が行う健康相談として、子どものSOSのサインを逃さず問題解決するために背景を理解し、実践できるよう習得する。またコミュニケーション力を高め、他職種と連携できるコーディネーター力を養う。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	公衆衛生看護学	①公衆衛生看護の概念、機能、役割を理解する。 ②公衆衛生看護の特質を歴史的背景、行政組織、展開方法から理解する。			○	○		
			○	○	○	○	○	
	養護概論	養護教諭の専門性のある職務内容を学ぶことによって、学校教育の学校保健の中核的役割を担うことができるよう実践できる力を身につける。また子どもの成長に向けて、問題意識をもって取り組むことができる力をつける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	発達段階と食育	子どもの各発達段階における食生活の現状や問題点を理解する。それぞれの段階に応じた食育活動を推進する力を身につける。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	学校保健と口腔保健学	①学校保健について、口腔保健学との関連から理解する。②歯科衛生士や養護教諭に求められる口腔保健学に立脚する知識や対処法を習得する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	介護予防	①介護予防の必要性を社会的、生理学的に理解する。②口腔の機能と全身との関係を理解する。③全身の機能と口腔の機能の低下を防ぐための方法を理解できる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	災害歯科保健医療	①歯科衛生士としての災害支援方法（歯科医療救護）について理解する。②各場面（避難所や仮設住宅棟）における被害者心理を理解し、対応方法を理解する。③災害時の口腔衛生に関する対応および継続支援を理解する。	○	○	○	○		
				○		○		○
	生活習慣改善と疾患予防	①疾病予防におけるコモン・リスクファクターアプローチの概念を説明できる。②口腔と全身の健康との関係を説明できる。③主な非感染性疾患とそのリスクを説明できる。④禁煙指導や食生活指導などの生活習慣改善の支援を説明できる		○	○	○	○	
				○		○	○	

	口腔保健学概論	①歯科衛生や歯科衛生士について述べることができる。②歯科衛生士の歴史を理解することができる。③歯科衛生士の業務を理解し、説明ができる。④歯科衛生士の社旗的ニーズを理科することができる。⑤グループで課題に取り組むことができる。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	口腔保健学入門	①口腔保健学の概念を理解し、歯科衛生士の果たす役割を知る。②医療人としてのマナーを身につけ、身だしなみを整える。③口腔保健を管理するための基本を理解する。	○	○	○	○		
				○	○	○	○	
	臨床歯科医学概論	歯科衛生士に必須の歯科保健と歯科医療の大筋を把握し、医療者の義務と責任からライフステージ別の歯科保健と歯科医療の特質、歯科診療で行われる医療面接から検査、診察、治療と予後観察・管理まで、保健指導、予防処置と診療補助に至るまでの概要が説明できる。	○	○	○	○		
			○		○	○	○	
	歯周病学	①歯周病の基礎的知識を説明する。②歯周病と全身疾患の関係を説明する。③歯周治療の概要を説明する。。④歯周病の検査を説明する。⑤歯周基本治療を説明し、口腔衛生指導を実施する。⑥歯周外科治療を説明する。⑦メインテナンスについて説明する。⑧歯周病とインプラント治療について説明する。		○			○	
				○	○			
	歯科保存学	歯を保存することの重要性を認識し，そのための検査・診断および治療方法について説明できる.		○			○	
				○	○			
	歯科補綴学	歯科補綴治療について理解し，歯科衛生士業務を実践できるようにします		○			○	
				○	○			
	口腔外科学	①歯科領域に発生する様々な疾患について診断ができるような基本的知識を身に付ける。②疾患について具体的に患者に説明できる。③臨床に際しては各々の疾患にそれぞれ対応できる十分な、歯科診療補助手順を身に付ける。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	小児・障害者歯科学	①胎児期から青少年期までの定型的な成長・発達を説明できる。②ヒトの各ライフステージでの口腔の正常像、口腔疾患とその予防・治療法ならびに口腔健康管理について説明できる。③成長発達期の口腔保健支援法や母子保健指導、個人および集団の口腔保健指導の概要を説明できる。④発達障害を含め、先天性および後天性障害の基礎知識と歯科治療、口腔保健指導	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	歯科矯正学	①歯、歯列、咬合の役割を説明できる。②年齢に応じた正常咬合を説明できる。③不正咬合の種類、原因と障害、矯正治療の目的を説明できる。④矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。⑤矯正装置の名称、構造、機能及び使用器具について説明できる。⑥矯正治療時の、適切な口腔内管理方法を説明できる。		○			○	
				○	○			
	高齢者歯科学	① 加齢に伴う精神、心理、身体と社会的な変化について説明できる。② 口腔機能の加齢変化、高齢者の口腔疾患の特徴、疾患の予防と健康管理が説明できる。③ 高齢者の口腔機能低下症について説明できる。④ 病院や歯科診療所、在宅での高齢者歯科診療で歯科衛生士に必要な知識と技術が説明できる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	○
	全身疾患管理と臨床検査	①代謝・内分泌疾患、循環器疾患、がんなどの病態および口腔に現れる特徴を説明できる。②全身疾患をもつ患者の歯科診療上の注意点および口腔管理の方法を説明できる。③口腔領域の臨床検査の種類・方法および検査値のとらえ方について説明できる。④全身疾患の臨床検査の種類・方法および検査値のとらえ方について説明できる。		○	○	○		
				○	○	○	○	
	歯科予防処置論	① 歯科予防処置の概念と法的位置づけを理解する。② 歯科予防処置の対象者の把握方法と評価方法を説明できる。③ う蝕と歯周病の原因、分類、進行過程、予防法を説明できる。④ 歯科予防処置時に起こりうる不快事項に対する予防法と適切な対応を説明できる。	○	○	○	○		
			○	○		○	○	
	う蝕予防処置	①う蝕予防処置法における歯科衛生士の役割を説明できる。②フッ化物の取り扱いができる。③PMTCの意義や操作方法を説明できる。④フッ化ジアンミン銀の取り扱い方法を説明できる。⑤小窩裂溝填塞の術式を説明できる。⑥う蝕リスクを評価するための情報収集ができる。⑦う蝕予防プログラムの検討ができる。		○	○	○	○	
				○	○	○	○	

専門分野	歯周病予防処置Ⅰ	①歯周組織の健康像を説明できる。②歯周組織検査ができる。③手用スケーラーの特徴を説明できる。④シックルタイプスケーラーの操作方法を説明できる。⑤シックルタイプスケーラーを適切に操作できる。⑥歯面研磨の操作方法を説明できる。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	歯周病予防処置Ⅱ	①キュレットタイプスケーラーの特徴を説明できる。②キュレットタイプスケーラーの操作方法を説明できる。③歯肉縁下歯石の探査方法を説明できる。④ルートプレーニングの定義を説明できる。⑤ルートプレーニングの操作方法を説明できる。⑥超音波スケーラーの特徴を説明できる。⑦超音波スケーラーの操作方法を説明できる。⑧エアスケーラーの特徴を説明できる。⑨エアスケーラーの操作方法を説明できる。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	歯周病予防処置Ⅲ	①歯周治療後のメインテナンスについて説明できる。②サポーティブペリオドンタルセラピーについて説明できる。③歯周病予防管理の必要性について説明できる。④歯科衛生士の業務記録を作成できる。⑤全身疾患と歯周病との関連について説明できる。⑥歯周病のリスクファクターに対する指導ができる。		○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	口腔保健指導論	①歯科保健指導の必要性、健康の概念について理解できる。②各ライフステージにおける情報把握の必要性およびその方法を概説できる。③歯科衛生士が行う口腔ケアについて理解する。④歯科衛生業務の実践には、コミュニケーション能力が重要性であることを理解する。⑤対象者に合わせた歯科保健指導を理解する。⑥グループで課題に取り組み、発表ができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	口腔衛生管理指導	①各ライフステージの特徴を理解し、対象者に合わせた歯科保健指導の必要性が理解できる。②対象者に合わせた、歯科衛生士過程に沿った口腔管理法が理解できる。③多職種連携の重症性を理解し、その在り方を理解できる。④高齢者や要介護高齢者、障がい者（児）を知り、対象者に合わせた口腔ケアができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	口腔機能管理指導	①摂食・嚥下に関わる理論及び構造が理解できる。②摂食・嚥下に関わる検査法、評価法が理解できる。③口腔リハビリテーションについて理解でき、対象者に合わせた口腔機能管理ができる。④要介護高齢者や障がい者（児）の口腔ケア方法及び口腔の管理について理解するとともに対象者合わせた口腔の管理計画の立案ができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	歯科健康教育	①各ライフステージにおける集団的特徴を理解し、保健・医療・福祉の各方面からの健康教育の方法を考えることができる。②各ライフステージにおける歯科保健の課題を理解し、その解決方法を考えることができる。③歯科健康教育におけるコミュニケーション能力を養うことができる。④グループにおいて、指導案や媒体作成、健康教育の一連の流れを実践することができ	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	口腔保健指導Ⅰ	①口腔保健学を学ぶ者として先ず、自分自身の口腔内を知る。②自らの健康を考え、いかに行動変容が重要か学ぶ。③ 口腔の機能やその構造の概要が理解できる。④ 自分自身の生活習慣を考え、行動変容を実践してみる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	口腔保健指導Ⅱ	①口腔保健学を学ぶ者として自分自身の口腔の健康管理ができる。②対象者の健康管理を行う上で、基礎知識に基づいた歯科保健指導ができる。③対象者の情報を的確に収集し、予防計画を立てることができる。④行動変容を促すコミュニケーション能力を養うことができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○		
	歯科診療補助論	①歯科衛生士法における歯科診療の補助業務を理解し、補助と介助の違いを説明できる。②医療安全の定義および感染予防について述べることができる。③歯科診療のステップおよび共同動作を理解し動作時の器具器材の受け渡しについて考察できる。④在宅訪問歯科診療の補助について説明することができる。		○			○	
			○	○	○	○	○	
	歯科診療補助Ⅰ	①歯科診療補助に必要な器材の取り扱いに浮いて理解する。②歯科診療補助に必要な共同動作について理解する。③歯科診療補助の際に必要な患者対応について理解する。		○	○		○	
			○	○	○	○	○	○
	歯科診療補助Ⅱ	①歯科診療の流れに沿った的確な補助方法（器材の滅菌と管理方法も含む）を理解する。②全身に配慮した歯科診療の補助方法および患者対応（技術と知識）を理解する。		○	○			
			○	○	○	○	○	○

	歯科診療補助Ⅲ	①歯科診療補助Ⅰ・Ⅱで習得した知識と技術をもとに臨床実習において歯科診療の補助・介助ができる。②特別な配慮が必要な患者の取り扱い方法を理解する。③歯科診療の補助の際に必要なリスクマネージメントを理解する。		○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	歯科材料学	最新の歯科材料および生体材料の組成、構造、特性、ならびに臨床での有用性等を説明できる。		○	○		○	
			○	○	○	○	○	
	歯科放射線学	歯科衛生士となるために必要な歯科放射線学について学び、歯科臨床で活かせるようになる		○			○	
				○	○			
	麻酔学・感染予防学	①滅菌、消毒と洗浄の違い及びその技法が説明できる。②感染事故、針刺し事故の予防と対億ができる。③滅菌、消毒、洗浄の基本的技法が実行できる。④患者の全身状態評価法を習得し、治療中のモニタの目的、使用法、結果の評価法を身に付ける。⑤緊急時の対応におけるチーム医療の目的、歯科衛生士の役割りを理解し、実践できるようにする。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	看護学概論	歯科衛生士に必要と考えられる看護学的視点と看護基礎知識を習得する。	○		○	○	○	
			○	○	○	○	○	
	看護技術演習	①看護援助に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。②養護教諭・歯科衛生士の立場として、学んだことを応用する。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	
	基礎実習	① 実習生としての自覚を持ち、望ましい態度で実習に取り組むことができる。② 歯科衛生士の役割について考えることができる。③ 歯科診療所の機能・役割を知ることができる。	○	○	○			
			○		○	○	○	
	臨床臨地実習Ⅰ（一般歯科診療所）	歯科診療所における臨床実習を通して、歯科診療の流れや歯科用器材、薬剤などの取り扱い方法などを修得するとともに、歯科衛生士が行う口腔疾患予防管理業務の理解を深め、地域口腔保健を担う歯科衛生士の役割を認識する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	臨床臨地実習Ⅱ（専門歯科診療所）	①スタッフとの協働、連携した対象者へ対応ができる。②対象に応じて配慮した対応ができる。③ 医療安全管理に配慮した行動ができる。④患者からの要求や相談内容を判断し、適切な応接ができる。⑤ 対象者に応じた健康維持増進の保健管理指導ができる。 ⑥スタッフや患者と良好なコミュニケーションがとれる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	臨床臨地実習Ⅲ（病院歯科）	①多職種連携、チーム医療が理解できる。②医療安全管理に配慮した行動ができる。③対象者の守秘義務を遵守できる。④資料やデータから歯科衛生業務の内容を判断できる。⑤対象者に応じた保健管理指導ができる。⑥全身疾患を持つ患者に配慮した対応ができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	地域歯科保健実習Ⅰ（障害者・高齢者施設）	①障がいの種類と歯科的特徴を理解する。②対象に応じて配慮した対応ができる。③発達段階に応じた口腔保健推進支援を展開する。④高齢者施設の概要、機能と社会的な役割について学ぶ。⑤施設での高齢者の生活について理解し、コミュニケーション方法、食事介助、口腔のケアの実際を習得する。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	地域歯科保健実習Ⅱ（保健施設）	①各地域の特性に応じた住民の生活のありようや健康課題を理解し、地域保健活動の実際を体験する。②ライフサイクルに合わせた地域歯科保健活動や、様々な健康課題に取り組む地域歯科保健活動を理解する。③地域住民とのパートナーシップの形成及び保健・福祉・医療の専門職の効果的な協働関係を学ぶ。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	地域歯科保健実習Ⅲ（教育機関）	①子どもの成長発達に応じた様々な健康課題を理解すると共に、健康課題に取り組む歯科保健活動を理解する。②対象者に応じた健康維持・増資の保健管理指導ができる。③集団を対象に歯科健康教育を実践できる。④児童・生徒のライフスキルを高める。6. 対象に応じて配慮した対応ができる。	○	○	○	○		
			○	○	○	○	○	
	臨床看護実習	①対象者（家族）の症状や生活における反応や病気に対する思いや抱えている問題に関心を向ける。②対象者の病態や臨床所見と対象者の反応や思いを関連付けて理解する。③コミュニケーションや日常生活援助等を通して、対象者の病いの体験を理解する。④医療者として基本的な態度（倫理的態度）を身につける。	○		○	○		
			○	○	○	○	○	
	総合演習	①人体の構造と機能、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ち及び回復過程の促進について総合的に理解する。②歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みについて総合的に理解する。③臨床歯科医学について総合的に理解する。④歯科衛生士の3大業務（歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助）について総合的に理解する。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
	卒業研究演習	①関心あるテーマに関連した文献検索ができる。②文献をクリティークし、自己の研究テーマを明確化できる。③研究テーマについて文献研究を行い、報告書が書ける。④研究内容、結果について他者に説明できる。		○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○